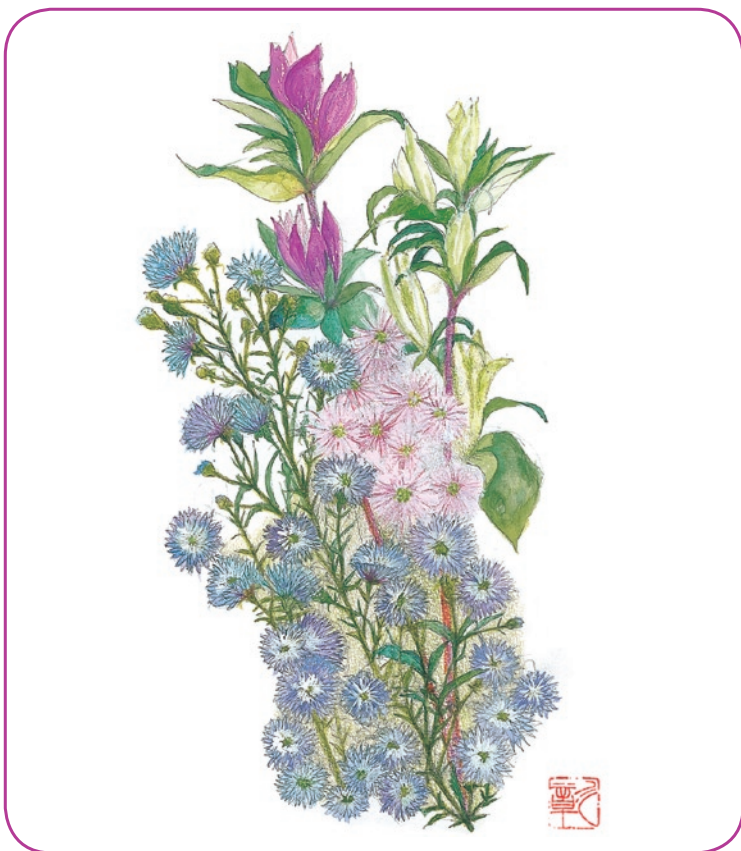


大阪医科大学学報

第90号 平成23年11月
(インターネット版)



秋の生け花（秋竜胆と孔雀草）

◆目

新任教授紹介	2
共同ステートメントの進捗状況	3
受賞等について	5
研究助成金等について	8
予防医学研究機構設置準備委員会中間報告	9
平成24年度入学試験要項	10
東日本大震災における大阪医科大学の活動	16
臨床研究教育研修会	18
病院看護部	19
中山国際医学医療交流センター	20
学内行事	24
西日本医科学生総合体育大会報告	26

◆次

看護専門学校・市民公開講座	29
行事日程	31
寄付金報告	32
主要会議報告	35
大学安全対策室	38
医療安全対策室	39
感染対策室	40
キャリア形成支援センター	41
歴史資料館	42
保健管理室からのお知らせ	43
西水会寄付報告・俳句	45
平成23年度 医療事故防止標語の入賞作品決定	46

新任教授紹介

新任教授のご紹介—口腔外科学—

この度、感覚器機能形態医学講座、口腔外科学教室の教授を拝命いたしました。口腔外科学教室の歴史は古く、初代小野尊陸教授、2代目小野克己教授、3代目島原政司教授と引き継がれました。そして、平成23年9月16日から私が4代目教授として教室を担当させていただくことになりました。これまで諸先輩先生方が立ち上げ、培ってこられました伝統ある教室を引き継ぐにあたり、その重責を強く感じています。

私は、1988年に岡山大学歯学部を卒業し、一貫して歯科・口腔外科医として大学病院での研究・臨床・教育に携わってまいりました。1995年には米国西海岸シアトルにあるワシントン大学歯学部顎顔面外科において口唇口蓋裂治療後、頭頸部腫瘍再建後の歯科インプラント治療を学びました。そしてその成果を2002年開設の岡山大学病院顎顔面インプラントセンターにて多くの患者さんに実践してまいりました。またインプラントを支える土台の歯槽骨修復のために、骨表面の骨膜細胞に着目し、骨膜細胞に存在する骨形成組織幹細胞からの骨・軟骨形成過程における細胞の増殖・分化を電子顕微鏡とマイクロCTを用いて三次元微細構造学的観察を行い、学位を取得いたしました。

2009年より赴任した福井大学医学部では、医学部総合病院歯科・口腔外科として化学療法、放射線療法治療中の患者さんの口腔ケアと歯科治療、治療終了後の地域歯科医院連携システム構築に力を注ぎました。そして私の専門分野として成長因子Bone Morphogenetic Protein-2 (BMP-2) と骨髄細胞を用いた歯槽骨組織再生医療を展開してきました。組織再生医療法は、従来の自家骨移植術を伴った歯槽骨修復と異なり、ドナー骨の採取が一切不要な術式です。成長因子により骨欠損部の周囲細胞を骨形成細胞や血管内皮細胞に増殖・分化させ、骨や軟骨を誘導します。こうした再生骨に人工歯根を植立することで、腫瘍などで喪失した骨と歯を回復し、噛む機能を回復する事が可能になります。現在、歯科の分野では、最も注目されている治療法の一つです。私は、この研究をライフワークとして米国カルフォルニア大学ロサンゼルス校歯学部と、新規歯科再生医療の臨床応用化を目指し、積極的に共同研究を行っています。

大阪医科大学におきましては、こうした知識と経験を生かし、病院内でお役にたてる歯科口腔外科診療を医局員一丸となって目指したいと思えます。

まだまだ未熟で若輩者ではございますが、伝統ある大阪医科大学の発展に少しでも貢献できますように尽力させていただく所存ですので、何卒よろしくごお願い申し上げます。



感覚器機能形態医学講座
口腔外科学教室

植野 高章 教授

昭和38年8月20日生
昭和63年3月 岡山大学歯学部卒業
平成5年7月 岡山大学歯学部附属病院文部教官助手（第一口腔外科）
平成7年8月 米国ワシントン大学歯学部顎口腔外科学留学
平成12年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 助手（顎口腔外科）
平成17年9月 米国カルフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）歯学部顎顔面再生インプラントセンター特別研究員
平成19年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 助教（顎口腔再建外科）
平成19年11月 米国UCLA校歯学部顎顔面再生インプラントセンターに文部科学省より特別研究員として出張
平成20年12月 John Hopkins International Singapore Medical Centerに短期出張
平成21年2月 福井大学医学部感覚運動医学講座歯科口腔外科学領域 准教授
平成21年2月 岡山大学歯学部非常勤講師
平成23年9月 大阪医科大学感覚器機能形態医学講座口腔外科学教室 教授

● 共同ステートメントの進捗状況について ●

学校法人大阪医科大学 理事長 植木 實
大阪医科大学 学長 竹中 洋

平成22年4月に理事長と学長間で合意された本ステートメントの主な事項については、新たに設置した理事会運営検討委員会（植木理事長・竹中学長・佐野理事・花房理事・大槻（勝）理事・磯田総合企画部長）で計7回の協議を行い、以下の如く合意し、規程の改正など必要な事項については理事会の承認を得ています。

本ステートメントの発表の直後に、周産期医療環境整備事業に関する補助金の未執行が明らかになり、ステートメントに記した様々な施策を検討する前に、徹底した原因究明と対応策を講ずる必要が出てきました。この事案に関しては、できる限りの対応策をとりましたが、会計検査院から一層の対応を求められる可能性があります。また、平成21年度決算では大幅な赤字が計上されたことから、財務体質の改善を最優先課題として原因を究明したところ、各部署での予算の流用や予算外支出が常態化していることも一因であることが明らかになりました。そこで、平成22年度以降は不適切な行為や予算執行を是正することと財務体質の改善に集中して取り組んでいることを含めて以下に報告いたします。

1. 公平性・透明性の高い経営体制の確立

1) 理事会構成の改正

理事の構成については特段問題ないと考えられる。構成される理事は、担当分野のバランスや理事となる人物の資質を問う理事委員会で審査され、理事会が判断している。病院長を理事とすることについては誰もが基本的に賛成であり、法人は慣行として病院長を在職中は理事としてきた。しかし現在、前病院長が病院担当として理事を継続していることもあり現病院長を理事に選任しなかったが、このことについては理事の任期を考慮に入れながら理事会で検討したい。病院長を私立学校法による学長と同様の充て職にするには、理事会決議による寄附行為の変更と文部科学省の認可が必要であるが、他に例がなく直ちに制度化は難しい状況にある。

2) 理事選任手続の改革

理事委員の構成に問題はなく、理事委員会では主に理事の資格審査や担当分野のバランスの検討を行っている。

現職理事が理事選出前に理事候補者を直接理事会に推薦できるように改正が行われ、文言の訂正を加えて平成22年7月の理事会で承認された。

3) 担当理事運営会議の改善

構成、役割については現状でよい。条文中の文言について数か所の削除や訂正が行われ、それらについては平成22年10月の理事会で承認された。担当理事運営会議の運営には、事務局制を並行して設け、業務の継続性、部門間の調整を図ることとした。事務局制は発足の決定と共に本年7月1日付で事務局長が就任し、整備が進められている。

4) 評議員会の活性化

メンバー構成に特に問題はない。現在、同会は定例または臨時で開催されており、各評議員からは活発な意見や発言をいただいている。

5) 三者懇談会について

三者懇談会設置の主旨は、理事長、学長、病院長の間での意思疎通を緊密に行うことであるが、現在、大学等の諸問題について意思疎通ができています。今後、収支状況を見ながら理事長・学長・病院長（病院担当理事）に他理事一名を加えたインフォーマルな意見交換の場を設けたい。

共同ステートメントの進捗状況

6) 意見交換会の開催

病院及び大学経営改善委員会などで個別の意見交換は進んでいる。しばらくはこれらの場を意見交換の場としたい。

7) 人事関係事項の手續の明文化・透明化

理事会の議決事項である人事関係事項については、今後その具体的手續内容を現状の実施方法も加味して明文化・透明化される。また、人事に関しては業務執行の評価と合わせて人事課の持つ事務的権限・機能との調整を図っていく必要がある。反面、人事情報は守秘されるべきものが多く、その体制の整備が急がれる。

2. 経営上の重要事項への対応

1) 中長期計画の策定

世界経済の不安定化が加速し、時期を特定した中長期計画の立案が困難な状況にある。さらに、本年3月の東日本大震災の被害状況から、現時点で日本経済の将来を予測することは極めて困難である。

そこで、CS21を引き継ぐ形で平成23年度事業計画を立案し、中期計画については時期を特定せずに項目を列挙した。東日本大震災の復興計画とその財源が明らかになるまでの間は、本法人の財務状況を見ながら、柔軟に対応する必要がある。

CS21は、現在、平成23年度経営計画で継続して実行されている。次期中長期計画の策定は検討されつつあるが、当面の間は財務状況を見ながら一貫性のある短期計画を繋ぎ、慎重に計画を立てたい。

2) 財務体質の改善

診療報酬のマイナス改定により平成20、同21年度に大きく低下した病院収支については、同22年7月より設置した理事会直轄の病院経営改善委員会で診療科毎の収支を詳細に検討し、赤字の原因究明と共にその解決を図っている。また、同様に大学経営改善委員会も設置して、大学の諸項目についての改善を検討している。一方、看護専門学校の赤字は引き続き十分に抑制されており、今年度末の閉校によって来年度からは赤字はなくなる。さらに、看護学部は完成年度前に得られる補助金によって予想より早く黒字となる見込みである。看護学部及び健康科学クリニックも、経営状況の改善が計画に沿って表れている。

以上のことは大学全体集会で経緯と結果を報告している通りで、大学として明るい見通しであり、今後も引き続き経営努力を行っていく。

3) 耐震補強を含めた病院増改築計画の策定

病院7号館を除く病院施設については、耐震補強あるいは新築をしなければならぬ。今後、財政状況の改善に合わせて具体的な計画を立てるために、現在調査を行っているところである。

4) 健康科学クリニック事業の在り方

健康科学クリニック事業は、設立当初から同事業が軌道に乗れば本来業務である教育・研究を開始すると目標を定めていた。そこで、平成22年5月に健康科学クリニック将来構想委員会（委員長：植木理事長）を設置して計8回開催し、健康科学クリニックを理事会直轄から大学の組織内に置くことについて種々協議が行われた。その結果、健康科学クリニックは大阪医科大学予防医学研究機構に改組し、健診・診療・教育・研究・治験を行う方針を定めた。これに伴い、平成23年2月より同委員会を予防医学研究機構設置準備委員会（委員長：竹中学長）に改編して計7回開催し、同機構の規程、将来の在り方を現在協議している。

以上のことについては同中間報告書としてまとめられ、学長より平成23年9月7日の教授会で報告された。

3. 人材を大切にす組織風土の醸成

1) 法人全体の意思疎通の活性化

法人の組織を整備・確立していきたい。理事会の会議内容は可能な範囲で教授会、臨床科長会、事務局会議及び各部署に報告すると共に、重要事項については大学ホームページや学報等に掲載している。また、大学全体集会をこれまで5回開催し、法人の多くの事項について積極的に報告・開示している。今後共、これらの手段で法人全体の意思疎通を図っていきたい。

2) 優秀な人材の育成と確保

法人として人材育成は最も重要な事項と考えている。設置した事務局の機能の一つとして、職員採用とジョブローテーションを含めた人材育成（教育）面を充実させていく予定である。その結果、透明性の高い職員の評価制度の確立を行っていく。

3) 働く環境の整備をはじめとする職員の待遇の検討

財源が確保でき次第、保育所の整備、女性医療人の復職支援などを図っていきたい。今後の職員の福利厚生についても法人全体で検討する課題であると考えている。

以上、これまで検討された本ステートメントの諸事項についてご報告致します。

ご存知の通り、東日本大震災の復興事業進捗が日本の経済に及ぼす影響は計りしれず、本法人の経営を間接的直接的に左右する大きな要因です。加えて、世界的な経済環境の変化は日本経済への影響を介して医療費や補助金など本法人の経営に係わってきます。このような状況のなかで、本ステートメントにとどまらず柔軟に対応することが求められていますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

平成23年9月

(平成23年9月13日付けにて、同内容を大学ホームページ「大学からのお知らせ（学内専用）」に掲載）

受賞等について

このたび、本学出身の須磨久善先生(学23年卒)が『日本心臓病学会 2010年度栄誉賞』を受賞されました。須磨博士は心臓病の大家で、メディアでもよく取り上げられる方です。過去に葉山ハートセンター院長を務められ、現在、財団法人心臓血管研究所スーパーバイザーであります。本学にとりまして先生のご受賞は大変名誉なことであり、心よりお祝いを申し上げたいと思います。

平成23年11月

理事長 植木 實



日本心臓病学会 2010年度栄誉賞

Creative Mind and Challenging Spirit

須磨 久善

Hisayoshi SUMA, MD, FJCC

心臓血管研究所

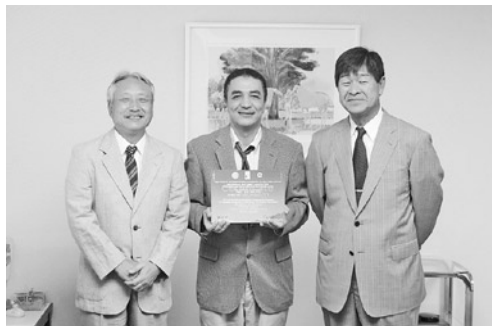


受賞等について

受賞等について

第6回アジア環大西洋解剖学会・第13回インドネシア解剖学会 ベスト・プレゼンテーション賞受賞
解剖学教室 ナビル・イード助教

2011年7月22日～23日にインドネシアのサラバヤ (Surabaya) で開催された第6回アジア環大西洋解剖学会・第13回インドネシア解剖学会 Contribution 'PRESIDENT MEDIAN ARTERY : CONTRIBUTION TO PALMAR ARCHES AND RELATIONSHIP TO MEDIAN NERVE (遺残した正中動脈が手掌動脈弓と正中神経に与える影響)' で本学解剖学教室のナビル・イード助教がベスト・プレゼンテーション賞を受賞しました。ナビル・イード助教のベスト・プレゼンテーション賞の受賞は昨年の5th JAPAN-ASEAN CONFERENCE ON MEN'S HEALTH & AGING (コタキナバル) に続き2年連続の受賞となりました。



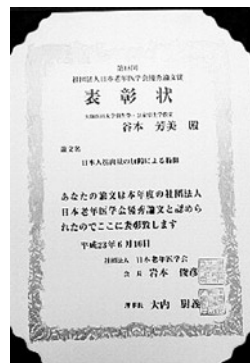
生命科学講座 解剖学教室 教授 大槻 勝紀



第18回社団法人日本老年医学会優秀論文賞受賞
衛生学・公衆衛生学教室 谷本 芳美 講師

平成23年6月16日、東京・京王プラザホテルにて開催されました第18回社団法人日本老年医学会にて、優秀論文賞を受賞されました。

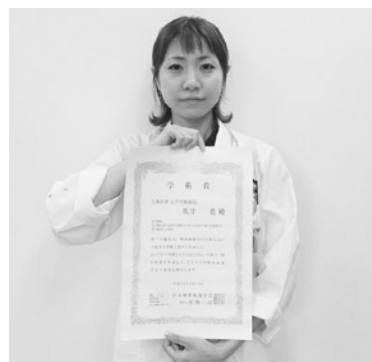
論文：「日本人筋肉量の加齢による特徴」
日本老年医学会雑誌 47巻, 1号 52-57, 2010



第12回日本検査血液学会学術集会 学術賞受賞
中央検査部 坂井 藍 臨床検査技師

平成23年7月17日に岡山県倉敷市の川崎医療福祉大学にて開催されました第12回日本検査血液学会学術集会にて、学術賞を受賞されました。

論文課題：「化学療法後の患者末梢血中にみられる好中球の形態異常と投与薬剤との関係」



第7回（平成23年度）鈎奨学基金授与式

日時：平成23年10月6日（木）12時10分～

場所：本館図書館棟1階 学長室

[鈎奨学基金研究助成賞]

衛生学・公衆衛生学教室 講師 谷本 芳美
胸部外科学教室 助教 神吉 佐智子

[鈎奨学基金奨励賞]

平成23年度 4年生 城 玲央奈
平成23年度 5年生 玉川 美緒



— 法人表彰 —

学校法人大阪医科大学は、大学運営に顕著な功績のあった次の二部門に対し、賞罰規程第2条の規定に基づく表彰式を、平成23年9月13日（火）役員室において挙行いたしました。

◆広報・入試センター

理由：同センターは、志願者数を平成16年度以降8年連続で増加させ、優秀な学生確保に貢献した。

◆内科学Ⅱ教室 研究グループ

理由：共同研究で開発した自走式カプセル内視鏡で、世界で初めて胃から大腸までのヒトの消化管の撮影に成功し、多くの報道機関で公表された。



受賞等について 研究助成金等について

第6回（平成23年度）伊藤奨学基金授与式

日 時：平成23年10月13日（木）12時20分～

場 所：本館図書館棟1階 学長室

平成23年度 1年生 森田 英男
 平成23年度 3年生 上山 晋也
 平成23年度 4年生 光藤 詩織



研究助成金等について

■2011年度 医学系研究奨励（基礎）〔公益財団法人武田科学振興財団〕

研 究 課 題 名	氏名（所属名・職名）	助成金額
徐放化抗癌剤抱合血管内皮前駆細胞を用いた新しい 癌治療法の開発	伊井 正明（薬理学・講師）	300万円

■2011年度 医学系研究奨励（臨床）〔公益財団法人武田科学振興財団〕

研 究 課 題 名	氏名（所属名・職名）	助成金額
卵巣癌の抗がん剤耐性評価システムと再発早期発見 ツールの構築 - 個別化治療へ向けて -	田辺 晃子（産婦人科学・講師（准））	300万円

■第44回（平成23年度）医学研究助成〔財団法人三井生命厚生事業団〕

研 究 課 題 名	氏名（所属名・職名）	助成金額
感染性大動脈瘤の診断・治療に関する総括的検討	石坂 信和（内科学Ⅲ・教授）	100万円

■平成23年度共同利用研究（下半期）〔京都大学放射線生物研究センター〕

研 究 課 題 名	氏名（所属名・職名）
放射線照射による残存型DNA損傷部位の同定 Characterization of radiation induced-persistent DNA damage using phosphorylated H2AX assay.	中村 麻子（解剖学・講師）

■平成23年度地域保健福祉研究助成〔公益財団法人大同生命厚生事業団〕

研 究 課 題 名	氏名（所属名・職名）	助成金額
小児予防接種における認知度および予防接種行動に関 わる因子と接種率の検討	津田 侑子 （衛生学・公衆衛生学・大学院生）	30万円

○研究協力課から処理（申請・機関承認等）しました公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。

研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。

予防医学研究機構設置準備委員会中間報告

予防医学研究機構設置準備委員会
委員長 竹中 洋

予防医学研究機構設置準備委員会設置までの経緯

平成22年5月以降、植木理事長の下で健康科学クリニック将来構想委員会が計8回開催され、健康科学クリニックを理事会直轄から大学の組織内に置くことについて、「教育・実習をどう行うのか、研究をどのように展開するのか、将来的には健診以外の事業が実施できるのか」等が審議された。その結果、健康科学クリニックについて大阪医科大学予防医学研究機構に改組し、健診、診療、教育、研究、治験を行う方針を定めた。これに伴い、健康科学クリニック将来構想委員会を予防医学研究機構設置準備委員会（委員長竹中洋）に改組したうえで、予防医学研究機構の規程、将来の在り方などを協議することとした。

予防医学研究機構設置準備委員会での協議

- ❖平成21年6月に発足した健康科学クリニックの現状を踏まえて、今後の在り方、事業としては大学に帰属をさせるべく、将来の方向性について協議する形で運営することとした。（平成23年2月1日）
- ❖規程を作成する上で実情を明確にする必要があり、先ず教育と研究について可能な範囲を定めることとした。主に後山委員から現在の運営管理について以下のような報告を受けた。また、委員による健康科学クリニックの見学を行った。（平成23年3月8日）

1) 教育について

スタッフが使用できる部屋も限られている中で、教員や学生の更衣室や実習室等をどう確保するかが課題である。健康科学クリニックは、保健師活動が充実しており、予防医学として看護学部の実習に適している。

2) 研究について

健康科学クリニックのコンピュータサーバーには統計解析の機能がないので、予防医学研究機構で予定される研究活動に合わせたプログラムを導入しなければ、実際の研究活動はできない。

◆教育に必要なスペース等を確認するために診察室や待合室並びに検査室と会議室の週間スケジュールや年間利用状況を具体的に調査した。健診業務の繁忙期である5-7月、9-11月は多くの学生の受け入れが困難と考えられた。看護学部の実習予定期間は9-11月である。（平成23年4月12日）

◆健康科学クリニックの5月時点での確認を行った。（平成23年5月17日）

看護学部と実習について具体的プログラムを詰める必要がある。

データベースについてはパッケージ品の設定のため、出力可能な項目が限られており、項目の追加・変更は可能であるが、その都度費用が発生する。

統計出力媒体は紙出力のみで、データとしての出力は出来ない。

データ処理の方法が見えてこないと研究者に声を掛けにくい。

予防医学研究機構設置準備委員会のまとめ

- 1) 健康科学クリニックはスペース面から、大阪医科大学の教育や研究を十分に行う環境にはないが、引き続き環境整備に努める必要があると同時に、可能な教育プログラムを看護学部で検討する。
- 2) 健診データは臨床研究用の活用が低い状態にある。従って、平成24年度後半に向けてデータベースの整備を進め平成25年度当初からは少なくとも研究利用が可能な環境を整備する。具体的には時間制による研究利用枠を設定するなど「予防医学研究機構」の展開を試みる必要がある。
- 3) 以上の事項が整えば、予防医学研究機構を医学部並びに看護学部が教育・研究を実践する所とし、両学部が相互利用する施設として運用する。これらの条件を踏まえて規程を作成し、事業が可能なように予算化をする。

平成23年8月9日 以上

平成24年度入学試験要項

— 平成24年度入学試験 について —

平成24年度医学部医学科・看護学部看護学科・大学院医学研究科の入学試験の概要をお知らせ致します。

I 平成24年度 医学部医学科 一般（前期・後期）及びセンター試験利用入学試験 日程

■一般入学試験

試験区分	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期）
募集人員	90名	15名
出願期間	平成23年12月15日（木）～ 平成24年1月31日（火） ※締切日当日消印有効・郵送に限る	平成23年12月15日（木）～ 平成24年2月29日（水） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	60,000円	60,000円
1次試験日	平成24年2月10日（金）	平成24年3月10日（土）
1次試験場	【大阪会場】 関西大学 天六キャンパス 【名古屋会場】 河合塾 名駅キャンパス16号館名古屋校 【東京会場】 大手町サンケイプラザ	【大阪会場】 河合塾 大阪校 【名古屋会場】 河合塾 名駅キャンパス16号館名古屋校 【東京会場】 河合塾 池袋校 南校舎
1次試験合格発表日	平成24年2月20日（月）16時	平成24年3月15日（木）16時
2次試験日	平成24年2月22日（水） ※1次試験合格者のみに実施	平成24年3月19日（月） ※1次試験合格者のみに実施
2次試験場	本学 本部キャンパス	本学 本部キャンパス
2次試験合格発表日	平成24年2月24日（金）13時	平成24年3月21日（水）13時
入学手続期間	平成24年2月25日（土）～ 平成24年3月2日（金） ※最終日の15時まで	平成24年3月22日（木）～ 平成24年3月27日（火） ※最終日の15時まで

■センター試験利用入学試験

募集人員	5名
出願期間	平成23年12月15日（木）～平成24年1月13日（金） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	32,000円
1次試験日	平成24年1月14日（土）・15日（日） （大学入試センター試験）
1次試験合格発表日	平成24年2月24日（金）13時
2次試験日	平成24年3月1日（木）※1次試験合格者のみに実施
2次試験場	本学 本部キャンパス
2次試験合格発表日	平成24年3月2日（金）13時
入学手続期間	平成24年3月3日（土）～平成24年3月9日（金） ※最終日の15時まで

平成24年度入学試験要項

共 通 事 項 (一般・センター)

1. 納 入 金

(単位：円)

項目	初 年 度 納 入 金			2 年次以降 納入金 (年額)
	納期 第 1 期 (入学手続時)	第 2 期 (8 月 31 日)	第 3 期 (12 月 31 日)	
入 学 金	1,000,000			
授 業 料	640,000	620,000	620,000	1,880,000
実 習 料	120,000	120,000	105,000	345,000
施設拡充費	420,000	420,000	420,000	1,260,000
教育充実費	3,000,000	1,000,000	1,000,000	900,000
納 期 別 計	5,180,000	2,160,000	2,145,000	
年度別納入金	9,485,000			4,385,000
6 年 間 総 計	31,410,000			

(注) 上記納入金以外に、入学手続時にPA会(保護者会)会費(年額100,000円)のうち第1期分50,000円および校友会入会金5,000円、校友会会費(年会費)10,000円をそれぞれ委託徴収します。

2. 任意の寄付

入学後、「募金趣意書」により任意の寄付金をお願いします。
※入学前の寄付金募集は行っていません。

3. 既納入金の返還について

入学手続完了者で平成24年3月30日(金)17時00分までに本学所定の書面により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納入金を返還します。
なお、一旦納入された入学手続金の返還時期については4月上旬～中旬以降となりますので予めご了承下さい。また、個別の事情による返還時期の変更等申し出には一切応じられませんのでご注意下さい。

4. 奨学金貸与制度について

本学では、学業・人物ならびに経済的事情等を考慮して、選考のうえ貸与する奨学金制度(1学年原則として5名、1人当たり年額約170万円)があります。上記の他、仁泉会(本学同窓会)奨学金、日本学生支援機構奨学金(旧：日本育英会)、その他の奨学金貸与制度もあります。

5. 特別奨学ローン制度・学費分納制度について

【特別奨学ローン制度】

本学に入学した者および在学生の保護者に対して、本学と協定を結んだ銀行(三井住友銀行高槻支店、三菱東京UFJ銀行茨木駅前支店)による本学納入金を使途とする特別奨学ローン制度があります。融資を希望される方は、融資が実行されるまでに相当期間(原則として申し込みから2週間以上)が必要であるため、できるだけ早く各銀行に相談され、お申し込み下さい。

【学費分納制度】

ローン会社(株式会社オリエントコーポレーション)と本学との提携による分納制度があります。なお、ご利用にあたってはローン会社所定の分割手数料が別途必要となります。利用可能なプラン等詳細については事前に必ず、ローン会社までお問い合わせ下さい。

出願資格や各入学試験実施の詳細等については、必ず
入学試験要項(有料：1,200円)の内容をご確認下さい。
資料は下記ホームページから請求可能です。

■入試に関する最新情報は■

大阪医科大学ホームページ : <http://www.osaka-med.ac.jp/>

■入試に関するお問い合わせ■

大阪医科大学 広報・入試センター TEL:072-684-7117(直)

平成24年度入学試験要項

Ⅱ 平成24年度 看護学部看護学科 推薦・一般（前期・後期）及びセンター試験利用入学試験 日程

■推薦入学試験

試験区分	推薦入学試験（併願制）
募集人員	15名
出願期間	平成23年10月17日（月）～平成23年11月4日（金） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	35,000円
試験日	平成23年11月13日（日）
試験場	本学 本部北キャンパス
合格発表日	平成23年11月18日（金）13時
入学手続締切日	第1次入学手続締切日：平成23年11月30日（水）15時
	第2次入学手続締切日：平成23年12月9日（金）15時

■一般入学試験

試験区分	一般入学試験（前期）	一般入学試験（後期）
募集人員	60名	5名
出願期間	平成23年12月15日（木）～ 平成24年1月11日（水） ※締切日当日消印有効・郵送に限る	平成23年12月15日（木）～ 平成24年2月15日（水） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	35,000円	35,000円
試験日	平成24年1月20日（金）	平成24年2月26日（日）
試験場	関西大学 天六キャンパス	本学 本部北キャンパス
合格発表日	平成24年1月27日（金）13時	平成24年3月6日（火）13時
入学手続締切日	第1次入学手続締切日 平成24年2月10日（金）15時	平成24年3月16日（金）15時 【一括納入】
	第2次入学手続締切日 平成24年2月24日（金）15時	

■センター試験利用入学試験

募集人員	5名
出願期間	平成23年12月15日（木）～平成24年1月13日（金） ※締切日当日消印有効・郵送に限る
入学検定料	15,000円
1次試験日	平成24年1月14日（土）・15日（日） （大学入試センター試験）
1次試験合格発表日	平成24年2月6日（月）16時
2次試験日	平成24年2月12日（日）※1次試験合格者のみに実施
2次試験場	本学 本部北キャンパス
2次試験合格発表日	平成24年2月15日（水）13時
入学手続締切日	第1次入学手続締切日：平成24年3月2日（金）15時
	第2次入学手続締切日：平成24年3月16日（金）15時

平成24年度入学試験要項

共通事項(推薦・一般・センター)

1. 納入金

(単位：円)

項目	納期		2年次以降 納入金(年額)
	初年度納入金		
	前期(入学時)	後期(9月1日～30日)	
入学金	300,000		
授業料	550,000	550,000	1,100,000
実習料	100,000	100,000	200,000※
施設拡充費	150,000	150,000	300,000
納期別計	1,100,000	800,000	
年度別納入金	1,900,000		1,600,000
6年間総計	6,700,000		

※助産学実習受講者は、4年次の実習料が500,000円となります。

(注) 上記納入金以外に、入学時時に学友会入会金5,000円、学友会会費(年会費)10,000円をそれぞれ委託徴収します。

2. 任意の寄付

入学後、「募金趣意書」により任意の寄付金をお願いします。

※入学前の寄付金募集は行っていません。

3. 既納入金の返還について

入学時完了者で平成24年3月30日(金)17時00分までに本学所定の書面により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納入金を返還します。

なお、一旦納入された入学時金の返還時期については4月上旬～中旬以降となりますので予めご了承下さい。また、個別の事情による返還時期の変更等申し出には一切応じられませんのでご注意下さい。

4. 奨学金制度について

日本学生支援機構奨学金の他、本学独自の奨学金として以下の制度があります。

①給付型…ア)1年次については入学者のうち、一般入試(前期)の成績優秀者上位4名に対し50万円給付。

イ)2年次については成績、人物ともに優秀で経済的事由があると認める者(各学年4名)に対し50万円給付。

②貸与型…入学後、経済的事由により、修学困難であると認める者(4名まで)に対し50万円貸与。

5. 特別奨学ローン制度・学費分納制度について

【特別奨学ローン制度】

本学に入学した者および在学生の保護者に対して、本学と協定を結んだ銀行(三井住友銀行高槻支店、三菱東京UFJ銀行茨木駅前支店)による本学納入金を使用とする特別奨学ローン制度があります。

融資を希望される方は、融資が実行されるまでに相当期間(原則として申し込みから2週間以上)が必要であるため、できるだけ早く各銀行に相談され、お申し込み下さい。

【学費分納制度】

ローン会社(株式会社オリエントコーポレーション)と本学との提携による分納制度があります。なお、ご利用にあたってはローン会社所定の分割手数料が別途必要となります。利用可能なプラン等詳細については事前に必ず、ローン会社まで直接お問い合わせ下さい。

出願資格や各入学試験実施の詳細等については、必ず
入学試験要項(無料)の内容をご確認下さい。
資料は下記ホームページから請求可能です。

■入試に関する最新情報は■

大阪医科大学ホームページ : <http://www.osaka-med.ac.jp/>

■入試に関するお問い合わせ■

大阪医科大学 広報・入試センター TEL:072-684-7117(直)

平成24年度入学試験要項

Ⅲ 平成24年度 大学院医学研究科（博士課程）一般・社会人・外国人留学生入学試験要項

1. 専攻・コース名

専攻・コース名		授 業 科 目
医 学 専 攻	予防・社会医学研究 コース	微生物学・感染制御学 法医学 衛生学・公衆衛生学 救命救急医学 リハビリテーション医学 心理学
	生命科学研究 コース	解剖学 生理学 生化学 薬理学 生体分子学
	高度医療人養成 コース	病理学 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ 内科学Ⅲ 神経精神医学 小児科学 皮膚科学 放射線医学 臨床検査医学 一般・消化器外科学 胸部外科学 脳神経外科学 整形外科学 眼科学 耳鼻咽喉科学 産婦人科学 麻酔科学 泌尿器科学 口腔外科学 形成外科学 救命救急医学 リハビリテーション医学
	再生医療研究 コース	解剖学 一般・消化器外科学 胸部外科学 整形外科学 産婦人科学 形成外科学 脳神経外科学 病理学 眼科学 薬理学
	先端医学研究 コース	【がん医療に携わる専門医師養成コース】 ・がん薬物療法医プログラム 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ ・放射線治療医プログラム 放射線医学 ・腫瘍内視鏡外科医プログラム 一般・消化器外科学 胸部外科学 泌尿器科学 産婦人科学 【腫瘍特異的治療研究コース】 脳神経外科学 放射線医学 【疾患プロテオミクス解析コース】 臨床検査医学 薬理学 生理学

2. 入学試験

募集人員	54名（一般入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験の合計）	
出願期間	(10月入試) 平成23年9月1日（木）～平成23年9月30日（金）必着 (2月入試) 平成23年12月1日（木）～平成24年1月13日（金）必着	
入学検定料	30,000円	
試験日	(10月入試) 平成23年10月28日（金） 平成23年10月29日（土）	専攻授業科目 外国語・面接
	(2月入試) 平成24年2月3日（金） 平成24年2月4日（土）	専攻授業科目 外国語・面接
合格発表	(10月入試) 平成23年11月18日（金）午前9時 (2月入試) 平成24年2月24日（金）午前9時	
入学手続締切	(10月入試) 平成23年12月16日（金）15時迄（締切厳守） (2月入試) 平成24年3月9日（金）15時迄（締切厳守）	

3. 学費

	初年度学費（入学金含む）			2年次以降学費 （年額）
	第1期 （入学手続時）	第2期 （8/1～8/31）	第3期 （12/1～12/31）	
入 学 金	230,000円			
授 業 料	120,000円	120,000円	110,000円	350,000円
実 習 料	50,000円	50,000円	50,000円	150,000円
合 計	400,000円	170,000円	160,000円	500,000円

4. 奨学金給付制度

大学院入学後、解剖学、病理学、微生物学・感染制御学、生理学、生化学、薬理学、生体分子学、衛生学・公衆衛生学、法医学、心理学の各教室に所属する大学院生に対し、在学期間中に授業料・実習料相当額の奨学金を給付します。給付を希望する場合には、自身が対象となるか事前に担当教授と相談して下さい（対象とならない場合もあります）。なお、外国人留学生は在留資格が「留学」に限ります。

5. 学生教育研究災害傷害保険

大学院在学中、実験・実習などの正課、大学行事、課外活動、大学敷地内における不慮の事故及び通学途中・施設間移動中における交通事故等が発生した場合に対する補償制度です。

本研究科では、大学院在籍中により安心して研究活動を推進できるよう学生教育研究災害傷害保険（通学中等傷害危険担保特約保険含む）Bタイプ及び医学生教育研究賠償責任保険（医学賠）に全員加入しています（費用は本研究科が負担しています）。

6. 長期履修制度

社会人入学試験を経て入学した学外にて勤務する臨床医、開業医、または本学にて勤務するレジデント等の身分を有する大学院生や、育児、介護等の事情によりやむを得ない事情が生じた大学院生のうち希望者を対象に、標準修業年限（4年）を超えて一定の期間（5年）にわたり計画的に研究を進めて修了を目指すことができるよう長期履修制度を平成22年度より導入しました。

これにより、初期臨床研修3年目やレジデントからの早期に大学院に入学して医学研究に取り組む若年医師等のキャリア形成を支援します。

出願時点において長期履修制度を活用して標準修業年限（4年）を超えて一定の期間（5年）での修了を目指す場合には、長期履修申請書を提出して下さい。なお、出願時点でまだ確定していない場合には提出不要です。第3学年次においてあらためて申請期間を設けます。



東日本大震災における大阪医科大学の活動

■東日本大震災における大阪医大の支援活動

一般・消化器外科 講師 平松 昌子

3月11日に発生した東日本大震災は、これまでに私達が経験したことの無い大きな被害を極めて広い地域にもたらしました。災害医療初動としてDMAT (Disaster Medical Assistant Team) は速やかに動きましたが、今回の被害は阪神淡路大震災の時とは異なり、大半が地震ではなく津波による水害であったため、DMATが力を発揮する場はほとんどありませんでした。一方政府による医療支援は当初からまとまった方向性を示すには至らず、厚生労働省は日本医師会に支援要請を行い、文部科学省は全国の大学に可能な支援の調査を行う、といった具合で、全く足並みの揃わない状態でした。本学にも複数箇所から支援の要請や問い合わせが来ましたが、何れもこの未曾有の大災害に対応するには非常にペースが遅く、私自身は苛立ちを覚えました。そこでまず本学の震災対策委員会を立ち上げ、最も速やかに医療支援が開始できる方法として選択したのはJMAT (Japan Medical Association Team) の先陣チームとして被災地に入ることでした。これは日本医師会からの宿舎、交通手段、保険などの物的・金銭的なサポートがあり、大阪府は岩手県を担当することになりました。第1チームは私が隊長となりその他医師・看護師・薬剤師・事務職などの計6名で、また第2チームは木村文治先生を隊長とする計7名で編成し、岩手県大槌町に赴きました。この地域の中核病院である



避難所となった大槌高校体育館と校舎

る県立大槌病院が壊滅的な被害を受けたため、避難所でもある大槌高校の保健室を仮設診療所として、避難所内および周辺地域の外来診療を行っていました。大半が高血圧や糖尿病、その他の慢性疾患の患者さんではありましたが、血液検査もレントゲン撮影もできない施設での診療活動は、医師と患者、人と人との会話や心のふれあいから始まるものであり、まさに医療の原点を見た思いでした。

その後JMATの活動は5月末まで続きましたが、大阪府下の数多くの病院からの参加希望が多く、本学からの派遣は2チームで終了しました。その頃になると周辺の開業医さんも診療を再開される方が次第に増えて来たので、その後の私達の支援の軸足は入院患者を受け持つ地域の中核病院へと重心を移動しました。これも行政に問い合わせで指示を待っていたのでは遅々として進展がみられなかったため、岩手県内で医療支援を必要としている病院との直接交渉を行い、県立宮古病院に救急担当医と神経内科担当医の2名を、県立高田病院の仮設診療所に整形外科担当医1名を1週間交替で派遣することとしました。これらの地域はもともと医療過疎地であるうえに、震災で周辺の医療施設が入院診療を継続できない状態に陥っており、比較的被害の軽かったこれらの病院に患者が集中して混乱を極めていました。そのような環境のなかでも、地域医療の最後の砦として救急患者を一人も断ることなくすべて受け入れておられる医療者達の姿をみて、普段大阪の恵まれた環境の中で診療に従事している本学からの派遣者は、それぞれに考えさせられることが多かったようです。



岩手県立宮古病院

■東日本大震災における大阪医科大学の対応と被災地支援活動について

学長 竹中 洋

平成23年3月11日に発生した東日本大震災について、今日に至るまでの本学の対応と被災地支援活動について記します。

【理事長・病院長との緊密な連携下に展開した初動対応】

12日の朝、木下病院長との意見交換で「DMAT参加の希望があり、有志が自律的に動き始めている」旨の報告を受けたものの、交通が大規模に遮断されており、救援物資の手当すら見通しが立たない状況でした。関係部署に指示していた教員並びに学生の所在確認が14日に纏まり、被災者無しとの報告を受け、また、植木理事長の提唱により法人全体として義援金を募ることが決定されました。

15日午前中の東京電力福島第一原子力発電所の水素爆発報道を受け、理事長と相談の上、教職員及び学生に対し、被災地への不要不急の移動自粛と注意喚起文書を同日中に学内に発信し、HP上にも公開しました。放射線医学教室鳴海教授、研究機構高淵講師（准）の協力を得て放射線被曝への対応を纏め、16日に法人と大学が協力して「東北地方太平洋沖地震対策委員会」を立ち上げることが決まりました。法人は理事長の陣頭指揮の下、主として義援金や支援物資の確保を担当し、学長・病院長は医療支援と患者受入れを企画実行することとなりました。下部組織として病院チームを設け、医師チーム派遣担当と患者受入れ担当、必要物資の管理担当を置き、学長を統轄者として学内に入る全ての情報を学長の下に集め、事務は病院事務部が担当することとし、同日の臨時教授会で委員会の構想を報告しました。

【息の長い被災地支援活動のために】

支援に関する情報発信源には、中央官庁、学会、医師会を介したものがあり、教室や部門による意思決定では、ボランティア活動と校務の区別がつかないため、混乱を避けるためにも、全学的な体制の整備が求められました。18日の朝から、震災支援体制に関する緊急会議を招集し、学長、病院長、病院事務部長、薬剤部課長、医師派遣担当責任医師（平松講師）、患者受入れ担当責任医師（浮村専門教授）らで体制を確認し、同日午後の臨時診療科長会で、病院各部門の応需体制がスタートしました。20日の午後ようやく旧知の岩手医科大学小川彰学長と電話が繋がり、岩手医科大学並びに岩手県の責任者と意見交換ができ、更に救急医学教室の西本診療准教授が大阪府医師会のJMAT先遣隊として22日に岩手県入りをし、被災地医療の現状について報告を受けました。岩手医科大学は本学と同じ私立医科大学であり、大学間対応が容易であること、岩手県の医療提供体制に深く係っておられることから、津波という震災の性格上、被災地では慢性期を中心とした長期的支援（地域医療再生事業）が必要になると考え、省庁の要請も視野に入れて、対応先は岩手医科大学並びに岩手県とする方向で、法人や学内の合意形成に努めました。

24日には警察庁の依頼で法医学教室の阿部助教が宮城県入りし、25日には被災地からの患者受け入れについて、診療科の応需体制とともに、放射線障害などの二次的被災を視野に入れつつ、主に感染対策をチェックポイントとすることが決まりました。31日には、一般・消化器外科学教室平松講師率いるJMATの第一陣6名が、4月7日からは、内科学I教室木村准教授率いるJMAT第二陣7名が、岩手県大槌町を中心に支援に入りました。また4月1日からは日本看護協会災害支援ナースとして5名の看護師が、延べ20日間にわたり岩手・宮城両県で活動しました。この間、附属病院では医師・看護師はじめ広く職員達から、支援に参加したいという声が相次ぎ、本学の建学の精神ここに在りと、心強く感じました。

6月以降8月末まで、岩手県宮古市の県立宮古病院に救急と神経内科を担当できる2名の医師チームが1週間交代で常駐しました。また、現在まで整形外科医1名が1週間交代で陸前高田市の県立高田病院に赴き、孤軍奮闘の活躍を見せています。神経精神医学教室は「心のケア」で宮古市内の医療機関の

求めに応じて4月以降断続的に活動を行っており、法医学教室も引き続き協力をしました。

このように、着実に息の長い被災地支援活動を展開できた大きな要因は、大阪医科大学構成員が冷静に組織を優先して活動したからであります。とりわけ、現地との交渉を快く引き受け、実戦部隊を纏め上げられた医師チーム派遣担当の皆様には心から感謝申し上げます。9月からは全国医学部長・病院長会議の指示もあり近畿ブロックの医学部がこの事業に参加し、近畿地区全体で被災地支援活動を継続していく体制が整いました。我々もその一員として継続的支援に今後も努力を重ねて参ります。

■臨床研究教育研修会開催

日時：平成23年7月25日（月）17：30～19：00
場所：P101教室（新講義実習棟1階）
演題：臨床研究に関連する健康被害と補償・賠償について

講師：京都大学医学部附属病院
探索医療センター探索医療臨床部
副部長 村山 敏典 氏



去る7月25日（月）、「臨床研究教育研修会」を開催いたしました。

大学院医学研究科および臨床治験センターでは、臨床試験（治験）をはじめとする医学的研究に携わる医療従事者を対象に、臨床研究に関する研修会を企画しています。

2009年4月に改訂された「臨床研究に関する倫理指針」では、研究者の責務として、介入を伴う臨床試験を行う場合には、健康被害の補償のために保険その他の必要な措置を講じておくことが明記されました。しかし、具体的な対応方法については触れられておらず、頭を悩ませた方も多かったのではないのでしょうか。今回は、患者の権利・利益の保護を中心とした臨床試験の基盤整備を研究されている、京都大学医学部附属病院探索医療センター探索医療臨床部副部長の村山敏典先生を講師にお迎えしました。

林臨床治験センター長の司会のもと、米田大学院委員会委員長による開会挨拶の後に村山先生が登壇されました。講演では、賠償責任と補償責任の差異、ヘルシンキ宣言などで規定されている被験者保護の考え方、海外の補償事情を交えながら、市販後の医薬品に対する医薬品副作用救済制度と臨床研究損害保険の位置付け、現時点では、抗がん剤、免疫抑制剤、細胞・遺伝子を用いる臨床研究には補償保険が設定されないこと、万が一臨床研究に関連する重篤な有害事象（副作用）が発生した場合の対応等について、わかりやすく解説していただきました。

また、株式会社カイトー（保険代理店）より、臨床研究保険とはどのようなものであるのか、保険がカバーできる範囲はどこまであるのか、補償責任担保条項の概要や既承認薬を承認の範囲内で使用する場合の補償措置概要等について説明いただきました。

質疑応答の後、最後に閉会挨拶として林臨床治験センター長より同先生への謝辞等が述べられ、約100名の参加者を得て盛会のうちに終了しました。

次回は、平成24年2月6日（月）に開催予定です。追ってご案内しますので、是非ともご参加いただきますようお願いいたします。

*** 国際家族看護学会に参加して ***

看護部（7A病棟）看護師主任 原 葉子

平成23年6月25日から3日間にわたり国立京都国際会館にて、第10回国際家族看護学会が開催されました。本院看護部からの国際看護学会での発表は初めての体験であり、東日本大震災の影響もあり海外からの参加状況が憂慮されましたが、北米、北欧、東南アジアの国々から多くの参加がありました。

本院からは、以下の3演題をポスターセッションで発表しました。

第10回国際家族看護学会発表演題

発表者	所属部署	タイトル
西原 望	77病棟	A necessary viewpoint to family in response to a training for home oxygen therapy
原 葉子	7A病棟	Consideration of the Gap in Recognition between Families of Terminal Patients and Nurses regarding the Relieving Pain
中山サツキ	看護部	Nursing support for a bothering who bore a newborn suffering congenital central hypoventilation

今回の国際家族看護学会のテーマは「家族看護の可視化－知の構築から実践へ」であり、さまざまな国の家族看護の実践報告だけでなく、政策への介入方法なども発表されました。発表の中で興味深かったことは、地域医療で重要とされているプライマリーケアについての発表でした。本邦においても東日本大震災後に、あらためて包括的な医療としてプライマリーケアが重要視されてきています。プライマリーケアの先進国でもあるアメリカにおいては成功例などが発表されていました。しかし、北欧やアジア諸国では、プライマリーケアを展開するにあたり、専門性の高い知識をもった看護師の教育、医師との連携、政治への介入についての課題が報告されていました。互いの国の問題や解決策を情報交換する中で、家族看護にとってのプライマリーケアの重要性について発表者だけでなく会場にいる様々な国の人も共感しており、それを身近で感じ取ることができ、改めて看護の心は世界共通だと強く感じました。

看護部では、看護研究委員会が、当院の看護の発展と質の向上に努めるため、看護研究の支援を行っています。毎年、多くの研究を院内だけでなく、院外発表や雑誌への論文を掲載しています。今回、国際学会に参加し、国内外の研究者や臨床看護師と交流することで多くの刺激を受けました。看護研究委員の一員として、エビデンスのある看護が実践できるよう、国内だけではなく、国際的な視野を持つ看護師育成に、努めていきたいと思っております。



中山看護副部長（後列左から2番目）・筆者（前列左から2番目）とタイの研究者の皆さん



西原看護師（左）とドイツの研究者

■ハワイ大学学生の本学研修について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一



リハビリテーション科で大腿義足についての小講義を受け、指導教員と討議するハワイ大学学生

平成23年7月4日から7月19日まで米国ハワイ大学医学部1年生 Aaron Christopher Hoo 君、Jae Sang You君、Faye Fusae Tachibanaさんが、海外選択臨床実習の一環として本学附属病院、北摂総合病院などで研修を受けました。

学生達は研修内容や医学部、看護学部両キャンパスの案内などのオリエンテーションを受けた後、予め希望を聞いた診療科で本学5年生と共に研修を受けました。

今回参加した学生達も大変優秀であり、指導していただいた教職員や、実習を共にした本学学生にとっても大変刺激になったと思われ、今後の大学相互交流の進展への大きな一歩となりました。

このたびの研修に際し、ご指導いただいた竹中学長、木下病院長をはじめ本学教職員各位、北摂総合病院木野院長、スタッフの皆様、またエスコートをしていただいた国際交流部を中心とした学生諸君に改めて御礼申し上げます。（※ハワイ大学の学生の感想文は中山国際医学医療交流センターのホームページに掲載予定です）

中山国際医学医療交流センターのホームページ <http://www.osaka-med.ac.jp/deps/nicmc/>



■海外夏期短期研修生の派遣について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では国際交流推進の一環として、医学部学生・教員の海外研修を積極的に行っていますが、今年7月から8月にかけて交流協定などに基づき下記の各大学に本学学生を派遣しました。

❖米国ウィスコンシン大学Greene教授主催ワークショップと臨床研修

研修期間 平成23年7月17日(日)～8月7日(日)

派遣学生 5年生1名 西田浩孝君

❖米国ハワイ大学PBLワークショップ

研修期間 平成23年8月14日(日)～8月19日(金)

派遣学生 3年生3名、4年生1名、5年生2名

清水博之君(3年生)、米原周吾君(3年生)、巽尚子さん(3年生)

森本貴子さん(4年生)、西田浩孝君(5年生)、峠英樹君(5年生)

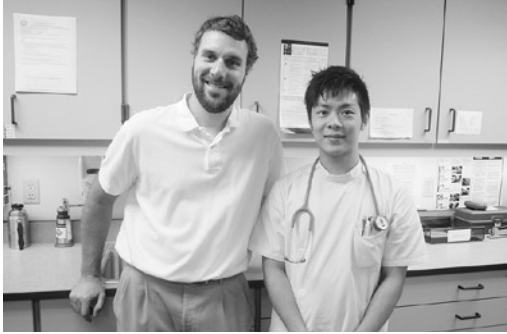
以下に各夏期研修内容について、派遣学生諸君に感想を述べていただきました。



■ウィスコンシン赤ひげワークショッププログラムに参加して

5年生 西田 浩孝

昨年に引き続き、今年も夏の3週間を利用して、アメリカのウィスコンシンプログラム(家庭医療)



臨床実習でお世話になったリッチランド医療センターの Bryan Myers 医師と

に参加させていただきました。ここでは体験したことの一部をご紹介します。

1週目は、Dr. Greeneの下でアメリカ流PBLを体験し、またウィスコンシン大学やその周辺の病院を見学し、アメリカの医療の実態について学びました。アメリカ流PBLは病態生理を非常に重要視していて、その点で大阪医科大学流PBLとは異なっているように思いました。病院はホテルのように広く綺麗でした。医療のレベルは移植などの先端分野を除いて、日本もアメリカも大差がないと感じました。そして、改めて日本の国民皆保険制度はすごいなと思いました。日本では、

誰でも、いつでも、どこでも、医療を享受できます。しかし、アメリカでは、日本のような国民皆保険制度はなく、個人単位でしか医療保険がありません。驚くことに人口のおよそ15%（約4,000万人）が無保険、と言われており、保険をもっていない人は最先端医療の国アメリカにしながら、それらの医療を享受できません。日本人はもっと自国の医療に誇りを持つべきだと思います。

2週目は、Jimbo M.D.の下で問診、身体診察、症例報告のトレーニングを受けました。

Jimbo M.D.は家庭医療を専門としていて、非常に頭脳明晰で素敵な先生でした。オスキー的な問診・身体診察ではなく、実践で通用しそうな問診・身体診察の仕方を教えていただきました。ここでは模擬患者さん相手でしたが、これらのトレーニングは3週目の病院実習で非常に役に立ちました。

3週目は、Richland Medical Centerにて病院実習をしました。ここではMyers M.D., Richards M.D., Wright M.D.の下で、実際の患者さん相手に、来院の理由を聞き、問診・身体診察をして、すぐに今の問題点のまとめと今後の治療方針を含めて先生に症例報告をするという内容でした。先生は私の症例報告を聞いてから一緒に患者さんを見に行っていくつか質問をし、今後の予定などを話して診察を終了します。基本的に学生が問診で聞いてきた情報や身体診察で得た所見はそのまま信用され、先生が確認するのは本当に重要な2、3点だけなので、間違いは許されませんでした。見るだけの実習ではなく、実際に医療に参加する実習だったので、緊張感があり得られるものも大きかったと思います。

最後に、このような機会を与えてくださった教授の先生方、中山国際医学医療交流センターの皆さんに感謝の意を申し上げます。



■ハワイ大学ワークショップに参加して

4年生 森本 貴子

平成23年8月14日(日)～8月19日(金)までハワイ大学医学部主催のワークショップに参加させていただきました。このワークショップには、日本からは大阪医科大学の他に慶応大学、高知大学、佐賀大学、そして、中国からは南京医科大学の学生が参加していました。

今回のワークショップでは、PBLの授業をハワイ大学の学生さんと英語で行いました。SimTikiと呼ばれる医療シミュレーションセンターでは臨床現場を再現した部屋で医療用マネキンを用い、ある症状を訴える患者さんに対しての鑑別診断とどんな処置をするべきかを4人程のグループで考えて実行しました。Physical Examination Sessionでは医療面接における患者さんとのコミュニケーションや身体診察などの臨床技術を教えていただきました。

実習の集大成として現地の模擬患者さんを相手にOSCEのように医療面接をする機会もありました。私は今回はワークショップ参加が二回目だったので模擬患者さんに戸惑うことなく臨むことができました。

中山国際医学医療交流センター

た。少し緊張しましたが、終わった後は実習で学んだ内容を実際の臨床現場に近い状況で発揮できた充実感を感じることができました。

また、前回の春のワークショップにはなかった、Injection Workshopというユニークなプログラムがありました。Injection Workshopでは説明の後、生理食塩水と注射キットを手渡され、指導医のもと実際に2人1組で筋肉内注射、皮内注射をし、自分の腹部に皮下注射をしました。注射は初めてだったので貴重な経験になりました。



聴診の練習

このWorkshopを通じて感じた事は、ハワイ大学と大阪医科大学のPBLの自学自習の違いでした。PBLの授業の後、自分でパソコンなどを使って調べるときにあまりいいサイトが見つけれなくてレポートが頼りないものになってしまうことが多いのですが、ハワイ大学では、例えば学生用の検索サイトに薬の名前を入れると、医学生が知っておくべき事項がとてわかりやすく書かれていました。この学生用のサイトは本当に便利だと思いました。

ハワイ大学の人達にはいろいろな場所に遊びに連れて行ってもらったり本当に親切にいただきました。また、他大学との交流を通じ、各大学の授業プログラムの違いを知り、勉強に対する熱心さが伝わってきてたくさんの刺激を受けることができました。ハワイ大学の学生さんをはじめ、他大学の人達との交流ができたことが一番良かったと思います。

最後に今回のワークショップに参加する機会を与えてくださった河野教授、花房教授、鈴木教授、中山センターの松本さん、PA会の皆様、そしてハワイで快く私たちのサポートをしてくださったKochiさん、Rayさん、熱心に指導してくださったSakai先生、Omori先生、関係各位の皆様に心から感謝いたします。



■平成23年度JICA「南部地域、医療リハビリテーション強化プロジェクト」 ベトナム国別医療リハビリテーション研修

リハビリテーション医学 教授 佐浦 隆一

独立行政法人国際協力機構（JICA）より国立障害者リハビリテーションセンター江藤文夫総長を通して依頼のあった標記の研修を平成23年8月8日に行いました。

2006年1月から2008年12月までJICA草の根技術協力事業としてチョーライ病院で実施された「地域リハビリテーション及び障害当事者エンパワーメントを通じた身体障害者支援事業」プロジェクトの成果を基盤として、チョーライ病院の医療リハビリテーション技術をさらに発展させるとともに、それらの技術を南部地域の他の医療機関に広く移転していくことを目的として、この研修が計画されました。

JICA兵庫国際センターが中心となり、兵庫県、大阪府の医療機関や神戸大学で行われる研修の中で、特に独立したリハビリテーション医学講座を有する大阪医科大学に「日本の医療リハの概要」について、講義形式で研修を行うよう依頼のあったものです。

研修員はベトナム国 南部地域の病院関係者6名（理



日本のリハビリテーション医療の現状と実際について、佐浦科長より説明を受けるJICAベトナム人研修員

学療法士5名、医師1名)で、8月8日午後中山国際医学医療交流センター長の河野公一教授と小川課長による学内見学の後、「日本の医療リハビリテーションの概要」の講義とリハビリテーションセンター見学を行い、最後に修了証を授与して、無事に研修を修了しました。



■大阪医科大学国際シンポジウム（教育センターレクチャーシリーズ17） 及び海外学生派遣発表会について

教育センター 宮本 学

大阪医科大学教育センターと中山国際医学医療交流センターの共催で、大阪医科大学国際シンポジウム（教育センターレクチャーシリーズ17）が「韓国と日本の先進的医学教育の現状」をテーマとして、平成23年7月11日（月）午後3時～7時に新講義実習棟1階 P101において行われました。

韓国カトリック大学医学部医学教育講座から Sun Kim 先生と Joo Hyun Park 先生、東北大学医学教育推進センターから石井誠一先生、本学から米田博教育センター長をシンポジストとして迎えました。竹中洋学長をはじめ花房俊昭教育機構長、河野公一中山国際医学医療交流センター長、関西医科大学の先生方、教育センター教員そのほか若手の先生方の参加がありました。

韓国カトリック大学医学部は、医学教育理論に基づいた先進的な教育を行っています。4年前から韓国政府の意向で6年制から4年制のメディカルスクールへ移行していますが、今回6年制のカレッジオブメデイスンに戻る決定をしました。講演は、現在実施されているカリキュラムの完成度と素晴らしさに加えこの辺の事情についても解説があり、日本の医学教育者である我々にも非常に参考になりました。石井誠一先生には、日本での全医科大学におけるOSCEに関する統計と解析から、今後の日本の医学教育とOSCEに対する考え方を講演していただきました。米田博センター長には、本学の教育理念と進むべき姿を現状と照らし合わせ明快に語っていただきました。いずれも、各大学が各国の医学教育に対する大きな責任を果たしていく立場からの講演で、文字通りの国際的シンポジウムとなりました。



韓国カトリック大学医学部 Sun Kim教授



英語で堂々とタイ・マヒドン大学での臨床実習についてプレゼンテーションを行う須賀佑磨君（6年生）

また、引き続き本学の海外派遣学生からの報告会とハワイ大学医学部からの留学生（3名）のハワイ大学の医学教育についての発表会を行いました。今回の学生の派遣先の大学は、マヒドン大学医学部シリラート病院、ハワイ大学医学部、ハワイ大学クアキニ医療センター、韓国カトリック大学医学部でした。Sun Kim先生とJoo Hyun Park先生の司会で、学生たちが堂々と臆することなく自分の体験と意見を英語で発表し応答している姿を見ると今までの多くの教員や学生達の努力が実を結んでいることを確信しました。

消火器取扱訓練および地震体験の実施

平成23年9月16日(金)13時30分から総合研究棟前にて、高槻市中消防署の協力により、消火器取扱実地訓練と起震車による地震体験が行われました。

新入職員をはじめとする約100名の参加者は、消火器の取扱い方、地震の揺れを体験し災害対策への認識を新たにしました。



院内コンサート

平成23年9月24日(土)午後2時から、附属病院外来ホールにおいて、本学室内管弦楽部、グリークラブ、内科学I花房教授(糖尿病代謝・内分泌内科科長)、内科学(総合診療科)浮村専門教授(総合内科科長)他による演奏会が行なわれました。本年度は、ダウン症の方々によるダンスパフォーマンスチーム『ラブジャンクス』の参加があり、来聴者全員が楽しいひと時を過ごされました。



保育室運動会

10月8日(土)、運動会日和の好天の中、本学保育室の運動会が行われました。元気いっぱいリズム遊びや各競技を披露した子どもたち。保護者競技のつなひきでは、思わず息を呑んでしまいそうなお父さん、お母さんの奮闘ぶりに真剣な面持ちで見入っていました。そしてパワー全開、頑張る姿に拍手拍手…!

大勢のギャラリーで、大いに盛り上がり、楽しいひとときになりました。



人権教育特別講義



平成23年度の人権教育に関する特別講義が下記のとおり開催されました。

日 時：平成23年10月3日(月) 17：00～18：00

場 所：臨床第一講堂

演 題：『高齢者の人権について
～思いやりの心と尊厳の尊重～』

講 師：大阪企業人権協議会

事務局長 内海 義春 氏

(<http://www.kigyo-jinkenkyo.jp/>)

平成23年 大学祭

今年は「頑張ろうJAPAN」をテーマに10月8日(土)、さわらぎキャンパスにおいて「大学祭」が開催されました。午前10時に竹中学長の挨拶に続き竹中学長・花房教育機構長・林看護学部長で鏡割りが行われました。

同キャンパスのグラウンドに設けられた野外特設ステージでは、軽音学部ライブを皮切りに、仮面ライダーショー、空手部演舞、グリー部歌唱会、トークイベント、学生イベント、ビンゴ大会など、多彩な催し物が行われました。また、市民の皆様参加によるフリーマーケットも行われました。キャンパス内の他の箇所においても、各クラブが様々工夫をこらしたイベントや出展などや模擬店等行い賑わいを見せていました。



平成23年度 解剖慰霊祭

日 時：平成23年10月15日(土) 14：00～15：00

場 所：高槻現代劇場中ホール



名誉・功労教授懇談会

日 時：平成23年10月21日(金) 11：30～

場 所：たかつき京都ホテル 玄の間



西日本医科学学生総合体育大会報告

第63回西日本医科学学生総合体育大会（西医体）報告

平成23年7月30日(土)16時30分よりホテル阪急インターナショナル6階瑞鳥(北)に於いて、第63回西日本医科学学生総合体育大会(西医体)開会式が執り行われました。

西医体は、西日本所在の大学の医学部および医科大学の医科学学生相互の親睦をはかり、スポーツの奨励発展に寄与することを目的としており、昭和24年、奈良県立医科大学と和歌山県立医科大学の両主管により、学生の発案・運営によって始まりました。当時は7校の参加、7種目の競技が行われ、以来その伝統は現在に至るまで受け継がれ、現在では参加44大学、参加学生数は1万5,000名を超えるまでになり、国民体育大会(国体)に継ぐ参加者数を誇ります。なお、本学は総合優勝3回(第12・26・59回大会)、総合準優勝1回(第25回)、総合第3位7回(第28~30・38・39・41・43回大会)の成績を収めています



今大会は、大阪医科大学医学部が昭和26年、昭和44年に続いて代表主管校となり、本学医学部、附属病院、仁泉会及びPA会の全面的なサポートの下、運営委員会の学生が主体となって準備を進めてきました。また、平成23年3月11日(金)に発生した東日本大震災を受けて、スポーツ大会を始めとする様々なチャリティイベントなどで用いられているスローガン「がんばろう、日本!」を今大会の方針として掲げ、被災された方々の悲痛な思いを深く受け止め、少しずつ復興に向かっていく日本に何ができるかを運営委員会の学生一人一人がしっかりと考えて、さらには、西医体として義援金を寄付するなどの活動を行いました。

さて、開会式は西医体運営委員会副委員長の山崎智己くん(医学部4年生)による司会の下、大会会長である竹中学長による開会挨拶、総山哲男氏(大阪府副知事)、伯井俊明氏(社団法人大阪府医師会会長)、飯田稔氏(社団法人高槻市医師会会長)及び梅村聡氏(参議院議員)による来賓祝辞が述べられました。

その後、西医体運営委員会運営委員長の西村時紘くん(医学部4年生)の挨拶があり、西医体運営委員会競技委員長の大西俊くん(医学部4年生)が開会宣言を行いました。



西村時紘くん



また、選手宣誓では、本学医学部4年生の橋村弘毅くんと中山小百合さんが二人息を合わせた立派な宣誓を行い、約130名が参加した会場を感動の渦へと巻き込みました。

開会式に引き続いて執り行われた懇親会では、平成23年度西日本医科学学生体育連盟理事長である南敏明教授(麻醉科学教室)が開会の挨拶を、木下光雄附属病院長、楢原敬郎 仁泉会理事長及び河合尚樹 PA会副会長から歓迎の挨拶が述べられました。

その後、連盟評議委員長である金岡秀晃くん(医学部4年生)から挨拶等があり、約125名が参加した懇親会は盛会のもと終了しました。

その後、連盟評議委員長である金岡秀晃くん(医学部4年生)から挨拶等があり、約125名が参加した懇親会は盛会のもと終了しました。

その後、連盟評議委員長である金岡秀晃くん(医学部4年生)から挨拶等があり、約125名が参加した懇親会は盛会のもと終了しました。

その後、連盟評議委員長である金岡秀晃くん(医学部4年生)から挨拶等があり、約125名が参加した懇親会は盛会のもと終了しました。

その後、連盟評議委員長である金岡秀晃くん(医学部4年生)から挨拶等があり、約125名が参加した懇親会は盛会のもと終了しました。

その後、連盟評議委員長である金岡秀晃くん(医学部4年生)から挨拶等があり、約125名が参加した懇親会は盛会のもと終了しました。

西日本医科学学生総合体育大会報告



橋村弘毅くん 中山小百合さん



南敏明 教授



木下光雄 病院長

第63回西日本医科学学生総合体育大会運営委員会

運営委員長	西村 時紘	広報賞品委員長	河村 佑太郎
運営副委員長	山崎 智己	広報賞品副委員長	広瀬 仁士
競技委員長	大西 俊	ラグビー安全対策委員長	在田 稔章
競技副委員長	山本 果奈	ラグビー安全対策副委員長	竹本 健一郎
総務会計委員長	山田 真規	熱中症対策委員長	藤田 正紘
総務会計副委員長	引石 惇仁	熱中症対策副委員長	野村 祐輝
競技会計委員長	中山 奈々	オンライン担当委員長	本田 武史
競技会計副委員長	関根 一臣	出版委員長	長谷川 幸世
安全対策委員長	枇榔 雄太郎	出版副委員長	森本 有姫
安全対策副委員長	中山 小百合	評議委員長	金岡 秀晃
宿泊委員長	柏谷 貴之	評議副委員長	金光 拓也
宿泊副委員長	夏目 大知	連盟書記局長	服部 礼佳
エントリー委員長	加藤 綾華	連盟書記副局長	鄧 傑之
エントリー副委員長	橋村 弘毅	全医体運営副委員長	三木 晶森



楢原敬郎 仁泉会理事長



河合尚樹 PA会副会長



金岡秀晃くん

以上、学務部学務課



今大会を運営するにあたり、竹中洋学長（大会長）、麻酔科学教室南敏明教授（連盟理事長）を始め、多くの後援団体、関係団体、大学関係者、OBの方々が全面的に協力して下さいました。この場をお借りしまして、運営委員会一同を代表し、厚く御礼申し上げます。

第63回西日本医科学学生総合体育大会運営委員会

運営委員長 西村 時紘

運営副委員長 山崎 智己

西日本医科学生総合体育大会報告

第63回 西日本医科学生総合体育大会

第63回西日本医科学生総合体育大会が行われました。本学の大阪医科大学を代表主管校として、西日本44大学が参加し、大阪を中心会場にして8月上旬にかけて20種目の競技が行われました。

本学の主な成績は以下のとおりです。

総合成績：14位

ソフトテニス女子	団体	ベスト8	
	個人	3位	林美輝・原麻由美ペア
サッカー		4位	
バレー女子		ベスト8	
バドミントン男子	団体	ベスト16	
バドミントン女子	団体	ベスト16	
弓道男子	団体	6位	
	個人	優勝	卜部 馨介
		5位	中田 侑吾
弓道女子	団体	7位	
陸上	400m	5位	夏目 大知
	800m	6位	奥田 聖瞳
	槍投げ	5位	森永 孝史
	砲丸投	2位	平野恵里子
		4位	鈴木英里子
ヨット	総合	15位	
水泳男子	総合	15位	
	100m自由	5位	石橋 聖之
	400m自由	5位	久保田康介
	800m自由	5位	久保田康介
水泳女子	400m自由	5位	新田世衣子
剣道男子	団体	ベスト16	
ハンドボール		ベスト8	
ラグビー		ベスト8	
男子ゴルフ	団体	9位	

今年の総合成績は14位でした。参加された選手の皆様本当にお疲れ様でした。また来年も頑張ってください。

先輩諸氏、教職員の皆様、今後とも暖かいご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

平成23年 学友会 会長 本田 武史

第41回 西日本医科歯科薬科学生ESS連盟夏期総合大会

平成23年8月5日(金)～8日(月)、京都大学を主管校として開催された第41回西日本医科歯科薬科学生ESS連盟夏期総合大会において、本学のESS部は以下の成績を収めました。

スピーチ部門 2位 末方 由(1年生)

BMC (Basic Medical Conference) 部門 3位

※ 西日本医科歯科薬科学生ESS連盟 <http://wjema.web.officelive.com/>



避難訓練

平成23年9月6日（火）

9月1日は防災の日です。毎年夏季休暇明けのこの日に避難訓練を行っていましたが、今年はいにくの天候で延期を余儀なくされ、9月6日に実施することになりました。今年、大阪北部に大地震が発生した想定で行いました。大地震発生のアナウンスの後、机の下に身を隠して落下物から身を守り、揺れが収まった後に避難しました。3年生一クラスのための避難となったこともあり4分20秒で避難することができ、その後の消火訓練にも積極的に取り組みました。

この数日前に台風12号による甚大な被害を目にさせていただげに、災害訓練は観察者になってはいけないことや積極的に参画する中で判断力を身につけることの大切さを感じました。日頃から安全意識を持って行動していきたいものです！



平成23年度 市民公開講座

■第4回

平成23年9月17日（土）14時～ 臨床第一講堂

『消化器がん化学療法の進歩』

化学療法センター 講師 後藤 昌弘

『抗がん剤治療のつらさを抑えるお薬について』

附属病院薬剤部 細見 誠

『抗がん剤治療を安心して受けるために』

化学療法センター 看護師主任

がん化学療法看護認定看護師 有田 由美



市民公開講座

平成23年度 市民公開講座 開催予定

回数	開催日	演 題	担当	薬剤部 演題	講演薬剤師
				看護部 演題	講演看護師
第5回	11月19日(土)	“肺がんなんてこわくない” 肺がんの外科治療について	胸部外科学 講師 (呼吸器外科 科長) 花岡伸治	分子標的薬って何？ 肺がん手術後に日常生活で 気をつけたいこと	浦嶋和也 上田育子
第6回	12月17日(土)	前立腺がんの 放射線治療	放射線医学 専門教授 猪俣泰典	前立腺がんの痛みを抑える お薬との付き合い方	後藤愛実
				前立腺がんと日常生活	長嶺美奈子
第7回	平成24年 1月21日(土)	遺伝のはなし - 遺伝子検査でどこまでわかる? -	臨床検査医学 講師 宮崎彩子	お薬の効く人と効かない人 の違い	山崎浩平



平成23年度 高槻市大学交流センター事業 『市民講座』

[第1回]

平成23年10月13日(木)16:30~18:00
高槻市総合市民交流センター7階 第6会議室
『高齢期における機能低下を予防するには
- サルコペニアの観点から -』
医学部 衛生学・公衆衛生学 講師 谷本 芳美



[第2回]

平成23年10月20日(木)16:30~18:00
高槻市総合市民交流センター7階 第6会議室
『肩のこりや痛みに対する看護
- からだとところの両面から -』
看護学部 教授 荒木 孝治



[第3回]

平成23年10月27日(木)16:30~18:00
高槻市総合市民交流センター7階 第6会議室
『健やかな未来のために:
「アンチエイジング」と「治験」』
臨床治験センター センター長 林 哲也
治験コーディネーター 原 亜由美



■主な行事日程(平成23年12月～平成24年2月)

12月3日(土)	実験動物慰霊祭	2月1日(水)	医学研究科教授会 診療科長会
6日(火)	病院運営会議	3日(金)	大学院医学研究科入学試験(～4日)
7日(水)	医学研究科教授会 診療科長会	6日(月)	看護学部臨時教授会
13日(火)	理事会		看護学部センター試験利用入学試験1次試験合格発表
14日(水)	看護学部教授会	8日(水)	看護学部教授会
16日(金)	看護専門学校クリスマス会	10日(金)	医学部一般入学試験(前期)1次試験
17日(土)	平成23年度第6回市民公開講座	11日(土)	第106回医師国家試験(～13日)
21日(水)	医学部教授会	12日(日)	看護学部センター試験利用入学試験2次試験
	看護専門学校冬期休暇(～1月7日)	14日(火)	理事会
26日(月)	大学協議会	15日(水)	医学部教授会
	医学部・看護学部冬期休暇(～1月6日)		看護学部臨時教授会
1月4日(水)	年賀交歓会		看護学部センター試験利用入学試験2次試験合格発表
10日(火)	病院運営会議	19日(日)	第101回看護師国家試験
11日(水)	医学研究科教授会 看護学部教授会 診療科長会	20日(月)	医学部臨時教授会
14日(土)	大学入試センター試験(～15日)		医学部一般入学試験(前期)1次試験合格発表
17日(火)	理事会	22日(水)	医学部一般入学試験(前期)2次試験
20日(金)	看護学部一般入学試験(前期)	24日(金)	医学部臨時教授会
21日(土)	平成23年度第7回市民公開講座		医学部一般入学試験(前期)2次試験合格発表
23日(月)	大学協議会		医学部センター試験利用入学試験1次試験合格発表
25日(水)	医学部教授会	26日(日)	看護学部一般入学試験(後期)
27日(金)	看護学部臨時教授会	27日(月)	大学協議会
	看護学部一般入学試験(前期)合格発表		
31日(火)	病院運営会議		

寄付金報告

*** ご寄付のお願い ***

大阪医科大学へご寄付された個人の方は、所得税の税額控除制度の適用を受けることが出来るようになりました。

(1) 新たに税額控除制度が導入

大阪医科大学は税制改正（施行期日：平成23年6月30日）に伴い、所轄庁から平成23年10月6日付けにて、個人からの寄付金について税額控除制度が適用される対象法人であることの証明を受けましたので、平成23年1月1日以降に本学に寄付された個人の方は、税額控除制度の適用を受けることができます。既存の制度である所得控除制度と今回新たに導入された税額控除制度のうち、寄付された方がいずれか一方の制度を選択し優遇措置を受けることとなります。

優遇措置を受けるには、寄付された年の翌年の確定申告期間に所轄税務署に確定申告を行う必要があります。

(2) 制度の選択

寄付者にとって有利な方を選択することができます。どちらが有利かは寄付者の状況により異なりますので、具体的に数値を申告書にあてはめてみて、判断することになります。詳しくはお近くの税務署にお問合わせください。

以下の算式により算出された額が、所得控除額および税額控除額となります。

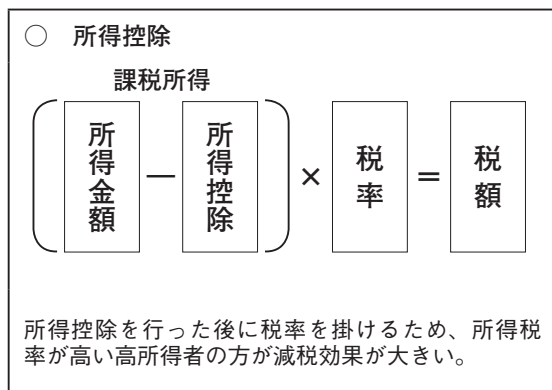
① 所得控除制度適用の場合

寄付金合計額（年間総所得金額の40%までです。） - 2,000円 = 所得控除額

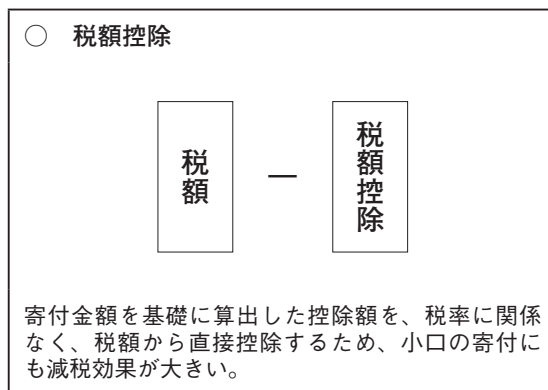
② 税額控除制度適用の場合

(寄付金合計額（年間総所得金額の40%までです。） - 2,000円) × 40%
= 税額控除額（所得税額の25%までです。)

(既存の寄付金控除制度)



(今回新たに導入された寄付金控除制度)



(お問合せ先) 募金推進本部 (担当 田原)
TEL : 072-684-7243 (直通)
E-mail : kikin@art.osaka-med.ac.jp

■ 大阪医科大学基金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成23年7月1日から平成23年9月30日までの間の寄付金入金件数は31件、金額は7,290,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年9月30日までの間の寄付金入金件数は318件、金額は45,069,000円です。

(順不同・敬称略)

医療法人毅峰会吉田病院 大阪電材株式会社 大阪府済生会泉尾病院 株式会社互恵会大阪回生病院
社会保険紀南病院 株式会社増田医科器械 神戸掖済会病院 医療法人信愛会暖生会脳神経外科病院
公立宍粟総合病院 株式会社日経サービス 株式会社フロリスト花正 東洋紙業高速印刷株式会社
社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会茨木病院 医療法人社団英明会大西脳神経外科病院
社会医療法人山弘会上山病院 医療法人寺西報恩会長吉総合病院 野間ガスサービス株式会社
医療法人社団蘇生会 医療法人社団洛和会洛和会音羽病院 医療法人恒昭会 松下記念病院
社会医療法人信愛会新生病院
高田 聡文 加藤 一博 木野 昌也 梶川 博 嶋田 準一 匿名3件

■ 附属病院の整備事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成23年7月1日から平成23年9月30日までの間の寄付金入金件数は4件、金額は500,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年9月30日までの寄付金入金件数は66件、金額は12,630,000円です。

(順不同・敬称略)

仁泉会守口支部むらさき会 株式会社関西ローマテリアル 医療法人進愛会
医療法人風早会外科野崎病院

■ 教育環境整備事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成23年7月1日から平成23年9月30日までの間の寄付金入金件数は1件、金額は500,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方に感謝の意を表します。

なお、平成23年4月1日から平成23年9月30日までの寄付金入金件数は23件、金額は47,300,000円です。

匿名1件

■ 別館講堂「机募金」応募状況について

<寄付金申込者>

平成23年4月1日から平成23年9月30日までの間の寄付金入金件数は5件、金額は2,100,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、平成23年1月1日から平成23年9月30日までの寄付金入金件数は6件、金額は3,300,000円です。

(順不同・敬称略)

杉本 益男 田中 清子 田中 和子 田中 陽子 匿名1件

寄付金報告

■「別館」・「歴史資料館」維持事業に係る寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成23年7月1日から平成23年9月30日までの間の寄付金入金件数は1件、金額は100,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年9月30日までの寄付金入金件数は34件、金額は3,633,460円です。

(敬称略)

杉本 益男

※恒常的なご寄付も「大阪医科大学基金（通称・フレンズ基金）」で承っております。何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

<寄付金に関するお問合せ>

募金推進本部

T E L : 072-684-7243 (直通)

F A X : 072-681-3723

E-mail : kikin@art.osaka-med.ac.jp



■ 募金の状況

1. 教育環境整備のための募金

平成22年4月1日から平成23年3月31日までに寄せられた教育環境整備のための事業募金について総額71,138,000円のご寄付をいただきました。寄付金につきましては、下表のとおり実施いたしましたのでご報告申し上げます。皆様のご支援・ご協力に改めて御礼申し上げます。

教育環境整備事業(平成22年度)の寄付金報告

単位：円

年 度	寄付金受入額	事業への支出額	内 容
平成22年度	71,138,000	17,100,000	新特待生制度奨学金 (342万円×5名)
		4,334,400	医学部定員増に伴う教育実習用機器備品整備費
		17,115,000	感染防止対策用病理解剖台一式 (既設解剖台撤去工事費含む。)
		1,016,064	出欠管理磁気カードリーダー及びクリニカルクラークシップ評価の電子化経費
		31,572,536	次年度繰越
(合計)	71,138,000	71,138,000	

【理事会】

〔平成23年8月9日〕

—審議事項—

1. 大阪医科大学学則の一部改正について
2. 学校法人大阪薬科大学との連携について
3. 教授の選任について

—報告事項—

1. 予防医学研究機構設置準備委員会中間報告
2. 担当理事運営会議報告
3. 日本私立医科大学協会、日本私立大学連盟報告
4. 病院関係報告
5. 今夏の節電について
6. 次期病院長の選任前に検討すべき諸問題について

〔平成23年9月13日〕

—審議事項—

1. 学校法人大阪薬科大学との連携について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 社団法人日本私立医科大学協会、日本私立大学連盟報告
3. 共同ステートメントの進捗状況について
4. 附属病院建替整備調査について
5. 学事関係報告
6. 病院関係報告
7. 病院経営改善委員会報告
8. 大学経営改善委員会報告
9. 病院長選考規程関係調査報告

〔平成23年10月11日〕

—審議事項—

1. 大阪医科大学学則の一部改正について
2. 学校法人大阪薬科大学との連携について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 病院長予定者選考について
3. 病院経営改善委員会報告
4. 日本私立大学連盟関係報告
5. 学事関係報告
6. 病院関係報告
7. 事務局指針報告

【臨時理事会】

〔平成23年10月27日〕

—審議事項—

1. 学校法人大阪薬科大学との連携について

—報告事項—

1. 臨床治験センター関係報告
2. メディカルトレーニングサポートセンターについて
3. 健康科学クリニックの所長の任命について

【臨時評議員会】

〔平成23年10月27日〕

—審議事項—

1. 学校法人大阪薬科大学との連携について

【大学協議会】

〔平成23年8月29日〕(臨時)

—協議事項—

1. 大学院新研究科について
2. 学長予定者選考等について
3. その他

〔平成23年9月26日〕

—協議事項—

1. 新研究科設置検討委員会答申最終(案)について
2. その他

〔平成24年10月24日〕

—協議事項—

1. 大阪医科大学学則の一部改正について
2. 看護学部ディプロマポリシーの変更について
3. その他

【医学研究科教授会】

〔平成23年9月7日〕

—審議事項—

1. 大阪医科大学医学研究科長期履修規程の一部改正について
2. 新研究科設置検討委員会第1次答申について
3. 平成23年度ティーチングアシスタントの追加上申について

—報告事項—

1. 第2次大学院教育振興施策要綱について
2. 平成24年度医学研究科入学試験出願受付について

主要会議報告

3. 第3回ロート女性健康科学研究助成テーマ募集について
4. 大学知的財産研修会について
5. 本学所有の固定資産(医療用機器を除く)現物調査実施について

[平成23年10月5日]

—審議事項—

1. 神戸大学大学院医学研究科との特別研究学生交流協定書(案)について
2. 新研究科設置検討について
3. 大学院教員の役割について
4. 大学院専任教員について(規程を含む)
5. その他

—報告事項—

1. 平成24年度入学試験(10月実施分)について
2. 千里ライフサイエンス振興財団各種セミナーについて
3. 平成23年度科研費の交付について
4. その他

【医学部教授会】

[平成23年9月7日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 教授選考における白票の取り扱いについて
3. 総合教育講座化学・生体分子学教室担当教授の選考について
4. 学長予定者選考等について
5. 大阪医科大学研究に関する利益相反マネジメント規程の一部改正について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 研究機構長報告
3. 広報・入試センター長報告
4. その他

[平成23年9月21日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 学長予定者選考規程改正委員会及び学長辞任請求規程改正委員会委員の選出について
3. 教授選考における白票の取り扱いについて
4. 教授の退職について
5. 学部学生からの休学願い出について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告
3. その他

[平成23年10月19日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 任期付教員の審査について
3. 名誉教授資格について
4. 総合教育講座化学・生体分子学教室担当教授の選考について
5. 病院長選挙について
6. 平成24年度医学部入学試験の件
7. 大阪医科大学学則の一部改正について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 倫理委員長報告
3. 教育機構長報告
4. 中山国際医学医療交流センター長報告
5. 広報・入試センター長報告

【看護学部教授会】

[平成23年9月14日]

—審議事項—

1. 看護学部改修工事(案)について
2. 利益相反委員会規程の改正について
3. 学則(別表3)の変更について
4. 日本学生支援機構の追加採用について
5. 平成24年度看護学部入学宣誓式およびオリエンテーション日程(案)について
6. 大阪医科大学看護学部広報委員会内規(案)について
7. 大阪医科大学看護学部国際交流委員会規程(案)について
8. 国家試験対策委員会の設置について
9. 地域看護学実習Ⅰ・Ⅱの実習施設の追加について
10. 平成23年度 図書の設定経費について
11. 平成24年度 入試関連について
12. 専門科目不合格者に対する対応について

—報告事項—

1. 海外出張について
2. 学生面談について
3. 老年看護学地域実習報告
4. 医学部・看護学部医看融合教育について

5. 学術奨励金(研究助成金)の公募案内について
6. 大学協議会報告
7. 大学各種委員会等報告
 - 1) 予防医学研究機構設置準備委員会報告
 - 2) 広報・入試センター長報告
8. 各種センター等報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
 - 4) 実習調整委員会報告
 - 5) 看護学部国際交流委員会報告
 - 6) 予算委員会報告
 - 7) 看護学部・看護専門学校連絡会報告
9. その他
 - 1) 神崎郡神河町 地域看護学実習施設依頼について
 - 2) 看護学部 保護者会発起人について
 - 3) 教員人事について
3. 看護学部棟改修与件について
4. 大阪医科大学看護学部広報委員会内規(案)について
5. 大阪医科大学看護学部国際交流委員会規程(案)について
6. 平成24年度 学事予定表(案)について
7. 大阪医科大学看護学部実習室使用内規について
8. 留年生の為の教育的支援について
9. 学生の為の就職支援の取り組みについて
10. 看護師確保に関するプロジェクトチーム(医学部附属病院)のメンバー選出について
11. 実習施設の追加について
12. 実習非常勤助手(仮称)の採用と資格基準について

一報告事項一

1. 海外出張について
2. 新研究科設置検討委員会答申について
3. 大学安全対策委員会在り方検討小委員会設置について
4. 大学協議会報告
5. 各種センター等報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
 - 4) 実習調整委員会報告
 - 5) 看護学部国際交流委員会報告
6. その他
 - ・教員組織審査の一部再申請について

[平成23年9月21日]

一審議事項一

1. 看護学研究科修士課程・博士課程の専門コース名等について

[平成23年10月12日]

一審議事項一

1. 看護学部教員人事について
2. 非常勤講師の上申について



■大学安全対策室からのお知らせ

大学安全対策室 室長 河野 公一

本学における「安全」の対象や講じるべき対策等について検討・審議を行うために設置された「在り方検討小委員会」は4つの提言をまとめ、提言書「大学安全対策委員会の今後の在り方について」を作成し、9月1日に開催されました大学安全対策委員会に提出いたしました。今後は、この4つの提言が実効性を伴うように調整し、大学安全対策委員会より理事会に諮る予定です。

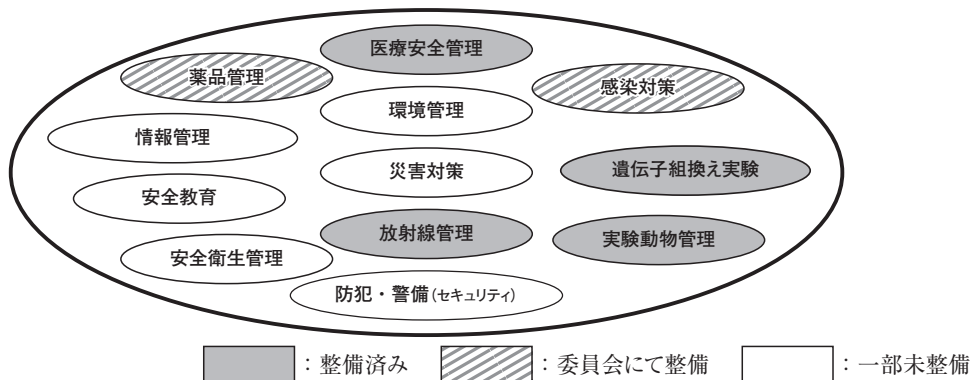
薬品管理小委員会は、さらに化学物質等管理取扱手引きに実験廃液に関する項目を追加するべく検討に入りました。また、化学物質等管理責任者および保管責任者を選出している教室等を対象として、平成24年1月に毒物劇物等の薬品類適正保管を巡視確認する予定です。その際には何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

研究室の安全管理検討委員会において、教室研究室の安全基準化を図った「研究室安全管理チェックシート」が作成されました。今後これを運用し、教室研究室の安全が保たれるように啓発して参ります。

「大学安全対策委員会の今後の在り方について」における4つの提言

1. 緊急に取り組まなければならない安全に係る項目の特定
2. 安全確保を実現するための体制整備
3. 全構成員の意識向上を図るための安全教育の実施
4. 法人管轄の委員会に拡大する

委員会発足当初の活動目標であったこれまでの3つ（薬品管理、感染対策、個人情報）の活動に加え、安全管理を検討すべき項目は以下のとおりで、「安全衛生管理」「災害対策」「防犯・警備」「情報管理」「環境管理」が緊急に取り組まなければならない安全にかかる項目と特定されました。



※この提言についての詳細は、大学安全対策室のホームページをご覧ください。

大学安全対策委員会：	大学安全対策委員会の在り方について
薬品管理小委員会：	実験廃液の取扱について（作成中） 毒物劇物等の保管状況確認作業について
在り方検討小委員会：	提言書「大学安全対策委員会の今後の在り方について」作成
研究室の安全管理検討委員会：	研究室安全管理チェックシート作成

*実施した研修会のDVDや安全に関する書類の貸出をいたしますのでご利用ください。

【連絡先】 大学安全対策室（総合研究棟1階）内線3404、3405
E-mail sps000@art.osaka-med.ac.jp
URL www.osaka-med.ac.jp/deps/sps/index.html

■第30回 特別講演会（医療安全対策室）

テーマ：『医療人のやりがい作り～コーチングコミュニケーションによるチーム医療～』

講師：和歌山県立医科大学

名誉教授 畑埜 義雄 先生

開催日：平成23年9月1日（木）午後5時～

出席者：300名

〔DVD上映会〕

開催日：平成23年9月6日（火）午後5時～

：平成23年9月7日（水）

午後3時～、午後5時～

出席者：382名



医療現場における安全管理の体制確保に関する特別講演会が9月1日（木）午後5時から、臨床第一講堂において、畑埜義雄先生を講師としてお迎えし、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者300名の出席のもと開催されました。（9月6日・7日 DVD上映3回382名）

木下病院長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室室長の司会により、畑埜先生から『医療人のやりがい作り～コーチングコミュニケーションによるチーム医療～』と題して、院内の他職種間コミュニケーションにおける方法として、コーチングスキルの必要性に付いて講演して頂きました。

本年2月に本学で開催された、「日本医療マネジメント学会第4回大阪支部学術集会」の特別講演で話された内容に、更にバージョンアップされた内容で講演されました。

まず最初に、コミュニケーションの基本は「挨拶」にあると言われ、挨拶が出来るか出来ないかが患者満足度に大きく影響する事を挙げられていました。また、和歌山県立医科大学ではケアマインド教育に対する取り組みとして、①緩和ケア病棟実習、②医療問題ロールプレイを取り入れられ、学生たちにケアマインドを植え付けてこられました。医療者が今考えるべき事を相当な部分で網羅された講演内容でした。

講演後の質疑応答においても、参加者の質問に対し熱心にお答えいただきました。

また、講演会終了後のアンケートでも、「日頃から何となく分かっていた事を明確に意識させられるような内容で、非常に分かりやすかったです。」「医療のプロとしてコミュニケーション力をどう養うか、スキルの身につけ方、また必要性について分かりやすく講演して頂いた。」「チーム医療の大切さは知っていましたが、コーチングコミュニケーションの基本が学べたと思います。」「後輩に指導する場合に、自分がやった方が早い事もあるが、教育するためには、後輩が出来るようにプロセスを導いていくような指導をしなければいけないと思った。」等々の意見が多く寄せられました。

最後に閉会の挨拶として、大道医療安全推進部長が同先生への謝辞を述べられ、講演が盛会のもと終了しました。

***** お知らせ *****

『医療に係る安全管理のための職員研修』（事例検討会・特別講演会等）の出席は、医療に係る全ての職員（常勤・非常勤・アルバイト・派遣・委託職員等も含む）が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。

研修会へご出席できない方については、DVDの貸し出しや医療安全対策室横研修室で随時DVDが視聴で出来ますのでご利用下さい（お問い合わせ：医療安全対策室 2号館5階 内線2990）

■第15回感染対策研修会の報告

平成23年6月20日、第15回感染対策研修会（本年度2回目）を開催致しました。

毎回、皆さまにご好評をいただいております、微生物学教室 准教授・感染対策室 室員 中野隆史 先生に標準予防策シリーズ シーズン3『スーパークールビズと標準予防策!?』というテーマでお話をいただきました。シリーズ化の第3弾となりますが、今回もわかりやすい、興味深い、楽しい内容となっております。まだ見ていらっしゃらない方は是非！感染対策室にご連絡下さい。貸出し用DVDを用意しておりますので、ご利用下さい。

最初に標準予防策の基本からはじまり、内容の要旨である①目に見えない「微生物」に思いをはせ②汗を気にせず③腕をまくって手首までしっかり手洗い④スタッフ 個人々の健康管理にご注意を！と続き、標準予防策、“あわあわ手洗いのうた”（花王 ビオレuのWebサイトに掲載されています）の実演があり、一緒に練習してくださった参加者の方も多く見られました（ありがとうございました）。

続いて、夏型感染症：ヘルパンギーナ、ノロウイルスによる食中毒など流行のデータが示され、細菌とウイルスの違いについての詳細、細菌性食中毒の予防のDVDが流されました。さすが！専門家らしい実験やコメントが紹介され、とてもわかりやすいお話だったと思います。そして最後は、いつもの通り感染対策室やICTメンバーに求められる資質で締めくくられ終了となりました。



第15回感染対策研修会 中野 隆史 先生
『スーパークールビズと標準予防策!?』

■第16回感染対策研修会の報告

平成23年7月21日、第16回感染対策研修会（本年度3回目）を開催いたしました。

今回は、この4月から感染管理認定看護師として感染対策室に勤務しております 川西史子 師長から、『サーベイランスについて～必要性と今後の取り組み～』とのテーマで、本院の現状、現在行っているサーベイランス、今後すすめていくサーベイランスについてお話がありました。

最初に“院内感染とは？”と“医療関連感染とは？”と両者の違いから診療報酬の改定、施設基準、医療法と法律と関連している点の説明があり、そのためにサーベイランスが必要であること、定義や目的、効果といったところの説明がありました。また、サーベイランスを行うことにより感染対策としての評価と改善ができること、職員教育への活用や感染対策上の責務を果たしている証拠の一つでもあり、サーベイランスを行うことは院内感染の状況を把握し、臨床の医療提供者にフィードバックができ、更にケア（医療）の質を改善することができ、結果として感染率が下がるとの内容が説明されました。

最後に、当院でのサーベイランスの状況から今後も適正なサーベイランスを行っていきますので、皆様のご協力をおねがいしますと締めくくられ、終了いたしました。



第16回感染対策研修会 川西 史子 感染管理認定看護師
『サーベイランスについて～必要性と今後の取り組み～』

※ 職員研修は医療法により、年2回の受講が義務づけられております。年2回の受講に満たない方は、必ずDVD上映会やDVD借用等をご利用いただき、受講していただきたいと思っております。
よろしくお願いたします。

感染対策室（内線2780/2939）

■ライフサポートクラブ員にインストラクター証を授与する

文科省補助事業の『淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム』の取組みの一環として救急医療部ならびにライフサポートクラブ（LSC）の協力で、カンタン心肺蘇生法・AED講習会を開催し、年間11回、843名の方々が受講されました。インストラクターをクラブ員にお願いしており、忙しい学業の貴重な時間を割いての指導に対して竹中医学部長、近藤キャリア形成支援センター長から感謝状として『インストラクター証』を授与しました。今回LSC部長の岸森健文さんから受賞に対する感謝のコメントをいただきましたのでご紹介します。



左から赤松加奈子(6年生)、丸尾理沙(5年生)、岸森健文(5年生)、藤本智貴(3年生)、清水秀浩(5年生)、猪俣陽介(6年生)

インストラクター証を戴いて

5年生 岸森 健文

LSCでは、本学医学部生、看護学部生である部員がインストラクターとして、「カンタン心肺蘇生法・AED講習会」(主催：キャリア形成支援センター)にて本学救急医学教室のご協力のもと、本学・附属病院の職員に対し2010年2月より指導を行ってまいりました。今回、その実績を認めて戴き、本学医学部長の竹中洋先生およびキャリア形成支援センター長の近藤敬一郎先生よりインストラクター証(感謝状)を戴きました。

当講習会には、医師、看護師はじめ医療従事者の方にも多くの参加を戴きましたが、学生である私たちが医療従事者の方に指導を行うということは正直なところを申しますと精神的に重みがかかることもございました。そんな折、当講習会を進めてくださっている近藤敬一郎先生、西本泰久先生(本学救急医学教室)から今回のインストラクター証(感謝状)授与の運びとなり、当講習会における私たちLSC部員の立ち位置を明確にしてくださることになりました。

今回の受賞で立ち位置が明確になったことで、心理面での重みは軽くなるのが期待できますが、その分責任は重大になると考えております。今後、内容の更なる充実を図り、本学職員の皆様にいざという時の術を効果的に効率的に、そして魅力的に学んでいただきたいと思います。



キャリア形成支援センター 歴史資料館

■メディカルトレーニングサポートセンター（MTSC）の活動が紹介されました

9月30日(金)の日経産業新聞・『医療・介護最前線レポート』でMTSCが医学教育の最前線として紹介されました。近藤センター長は取材で、本来、シミュレーターを活用したCV（中心静脈）カテーテル研修は高度な医療技術が求められるため、医学部卒業後の研修医から学ぶことが多い。しかし、医学部生といえども、早くから経験を積んでおけば必ず医療現場で役立つとの考えで、メディカルトレーニングクラブ員を対象に研修を実施しているとコメントされました。学生からも専門性の高い研修ができる恵まれた環境として受け入れられています。

また、医療シミュレーターの業界大手である京都科学のホームページにも医学生を対象にしたフィジカルアセスメントモデルを活用した研修が紹介されました。MTSCは24時間365日利用できるシステムが稼働し、月間500名以上、累計では8,962名の教職員や地域の医療関係者が利用されており、施設の機器の充実や管理体制が評価され、他の医療機関からの見学も増えてきています。

(京都科学ホームページ <http://www.kyotokagaku.com/jp/news/pdf/igaku-news2-osakaidai.pdf>)



日経新聞の取材風景



TBSの取材風景

また、別の取材では、TBS毎週日曜日午後6時30分から放映されているドキュメンタリー番組『夢の扉+』で紹介されました。京都科学で作成された医療用シミュレーターを用いての研修成功事例として、MTSCでのCVC研修の取材を受けました。番組は10月16日(日)に放映されました。

■歴史資料館からのお知らせ

【 歴史資料館展示資料恵与者 】

平成23年7月1日から平成23年9月30日までに1名の方(別表)よりご恵与賜りました。

本事業の趣旨をご理解いただきましたご厚意に対しましてここに改めて心よりお礼申し上げます。

(敬称略)

受領日	恵与者氏名	資料名	恵与者と本学の関係
H23.9.30	島本 史夫	聴診器 3点、ハンマー、額帯鏡、その他 5点	医学部 昭和54年卒

保健管理室からのお知らせ

■ 定期健康診断について

10月17日(月)～10月28日(金)に平成23年度職員定期健康診断、有機溶剤・特定化学物質健康診断、及び大学院生の特定期業務従事者健康診断を実施しました。

健康診断は、「自分の健康、生活習慣を考える」良い機会ですので、所見の有無に関係なく今回の健康診断結果を活用して、自分自身の体の状態や生活習慣を振り返ってみましょう。

未だ健康診断を受けていない方は、早急に健康診断を受けて、結果を保健管理室まで提出して下さい。

【健康診断の結果が・・・】

■ 「正常範囲内」の方は、

異常が無くても昨年の結果と見比べたり、生活習慣を見直してみましょう。

『バランスよい食事』『楽しく運動』『ゆっくり休養』を！！

■ 「要経過観察」「要医師指導」の方は、

「再検査、精密検査、受診」を勧められている場合は放置せずに必ず再検査・受診をして下さい。また再検査や受診の必要がなくても、食生活、運動、喫煙、飲酒など生活習慣を見直し改善しましょう。

■ 「治療中」の方は、

健診結果を主治医に見てもらいましょう。

歩数計の貸し出しを行っています！
生活（身体活動）パターンや消費カロリーの推移を1日単位でグラフ化し、客観的に見ることが出来ます。
是非、ご利用下さい！

■ 長時間労働者の医師による面接指導について

労働安全衛生法の改正（平成18年4月1日施行）により、長時間労働者（月100時間を超える時間外・休日労働）に対して医師による面接指導を実施することが義務付けられました。この背景には職場における心身の健康障害の増加が深刻な問題となっており、中でも長時間労働が仕事による負荷を大きくするだけでなく、睡眠・休養機会を減少させ、疲労蓄積の原因となり、心身の健康障害のリスクを高くすると考えられています。

本学では労働安全衛生法で定められた基準に加えて、“月45時間を超える時間外・休日労働で産業医が必要であると認めた場合”という独自の基準を設け、長時間労働者への健康診断、及び面接指導を実施しています。

【対象者】 月45時間を超える時間外・休日労働で産業医が必要であると認めた場合

【実施時期】 特定業務従事者健診（5月）、職員定期健康診断（10月）と併せて実施

【健診内容】 計測、尿検査、血液検査、胸部X線、心電図、メンタルヘルス調査票

（但し、5月の健診については、血液検査、胸部X線、心電図を除く）

【面接指導】 健康診断およびメンタルヘルス調査票の結果、面接指導が必要であると産業医の指示があった場合、医師（本学の健康管理医）による面接、及び健康相談を実施します。また産業医の指示がなくても、本人の希望がある場合、相談を受けることができます。是非ご利用下さい。

■ インフルエンザワクチン接種について

インフルエンザワクチン接種につきまして、本学のワクチン購入先である北里第一三共ワクチン（株）製造のワクチンが、トリレオウイルス混入のため、出荷予定本数が半減し、出荷日程が遅延することになりました。しかし薬剤部のご尽力により、ワクチンを確保することができ、予定通りワクチン接種を実施しました。接種日程が二転三転し、職員、学生の皆様にはご迷惑をお掛け致しました。

なお、インフルエンザの予防には流行期前（11月頃）のワクチン接種が有効です。未だワクチン接種を受けておられない方は他の医療機関を受診し、ワクチン接種をお奨め致します。



保健管理室からのお知らせ

【発熱、咳など疑わしい症状が出現した場合】

罹患が疑われる症状が出現した場合、業務や講義、実習を止めて、上司や保健管理室（学生の場合）に報告し指示を仰いで下さい。またインフルエンザと診断された場合は自宅療養をして下さい。職場や学校を休むわけにはいかないと受診が遅れる場合が少なくありません。早期の治療は自分を守るだけでなく、他人への感染を防ぐためにも重要です。

軽率な行動が周辺の人々、そして患者様に迷惑をかけることとなります。各自責任ある行動をとってください。

あなたは大丈夫？ 咳エチケット

咳やくしゃみの飛沫にはウイルスや細菌などの病原体が大量に含まれています。咳をすると病原体を含んだ飛沫が飛び散り、その飛沫を吸い込んだり、飛沫が付着した手すりやドアノブなどに触れた手で目、鼻、口を触れたりすると病原体が体内に入り感染します。そのため「衛生的手洗い」や「咳エチケット」が重要です！！出来ていない人が多いです。一人一人が少し注意するだけで、感染防止になります。

- ① 咳、くしゃみが出たら、マスクを着用しましょう。
- ② マスクが無い時は、咳、手ではなく、ハンカチやティッシュで口と鼻を覆い、周囲の人から顔をそむけましょう。使用後のティッシュは、すぐにゴミ箱に捨てましょう。
- ③ 咳をしている人を見たら、マスク着用を勧めましょう。



■ ノロウイルス感染症にも気をつけましょう

ノロウイルスはヒトからヒトへの感染力は極めて強力で、ワクチンもなく特效薬もないので、治療は対処療法に限られます。ノロウイルス感染症は、毎年11月～4月頃には流行しますので、発症防止・感染拡大防止のために、以下の点に注意して下さい。

【感染源、感染経路】

- ① 汚染された食品（二枚貝など）を生や加熱不足で食べる。
- ② 感染者の便等で汚染された手指。
- ③ 感染者の吐物から空気中に漂ったウイルスを吸入する。

【予防策】

- ① 手洗い
流水・石けんによる手洗い（帰宅時、食事前、調理前、配膳前、トイレ後）
- ② 食中毒の予防
加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱する。特にかきやはまぐり、あさりなどの二枚貝類は十分に加熱する。
まな板、包丁は使用した後、消毒する。また生鮮食品はしっかり洗う。
- ③ 感染者の嘔吐物、ふん便の処理
使い捨てマスク・手袋、250倍に薄めた塩素系漂白剤を用いて、乾燥しないうちに速やかに処理する。「すばやく処理する」「乾燥させない」「消毒」が重要です。


■ 3回目B型肝炎ワクチン接種・3回ワクチン接種後抗体検査のお知らせ

下記の要領で第3回目B型肝炎ワクチン接種、3回ワクチン接種後抗体検査を実施致します。対象となられる方には案内を個人通知致しますので、受検して下さい。

	第3回目B型肝炎ワクチン接種	3回目ワクチン接種後抗体検査
日 時	平成23年12月8日（木）、9日（金） 15：30～16：30	平成24年1月18日（水）、19日（木） 15：00～16：00
場 所	保健管理室（研究棟1階）	

西水会寄付報告

平成23年度、西水会食事会で実施いたしました募金の総額は、¥143,441でした。
以下、領収書のとおり寄付いたしましたのでご報告いたします。



感謝状

（私）大阪医科大学
西水会様

このたびは、ユニセフ緊急・復興募金にご協力をいただきありがとうございます。ユニセフは、破壊された学校を復旧して子どもたちが学校に戻れるようにしたり、健康を守る衛生施設を整えたり、栄養価の高い食糧や安全な水、医薬品などを届けたりしています。（このたびの東日本大震災への募金は、日本ユニセフ協会がユニセフと協力して実施する緊急・復興支援のために使わせていただきます。）被害に負けないよう必死にがんばっている子どもたちが、一日も早く健康で平和な生活に戻れるよう、ともに支援活動に取り組んでいきたいと思います。

2011年08月11日

会 長 赤 松 良 子

unicef

領 収 書

569-8686
大阪医科大学
2-1

（注）大阪医科大学
西水会様

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

9901 0668740

¥143,441※

上記の金額も東日本大震災緊急募金として
徴収されました。

会 員 協 会 名 日本ユニセフ協会
（ユニセフ協会の
認定を受けた
任意の団体）
〒108-8507 東京都港区赤坂
3-1-1
ユニセフ

財団法人日本ユニセフ協会は公益財団法人の認定を受け、2011年4月1日に公益財団法人日本ユニセフ協会となりました。

このたびはユニセフ学校募金にご協力を賜り、誠にありがとうございました。
ここに領収書および感謝状をお送りいたします。ご協力いただきました皆様へよろしくお伝えいただければ幸いです。
今後とも引き続きユニセフの事業にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。末筆ながら貴校のますますのご発展をお祈り申し上げます。

-ユニセフ資料請求先-
●インフォメーション、ボクサー、もしもなど-学校事務室 TEL. 03-5789-2014
●ビデオ、パネルなどの視聴覚教材-ユニセフタイプルーム TEL. 03-5471-7091

◆大阪医科大学俳句会（八・九・十月）

- | | | | |
|---------------|---------------|----------------|-----------------|
| 密議の間圓座二つの千代田城 | 草の穂に觸れば熱もつ鬼貫忌 | 新道の下を旧道赤とんぼ | 目も遙にスペインの野の日輪草 |
| 八朔や流水模様のだらり帯 | 吾亦紅里の媪の肥後訛 | 肩にとんぼ湖を鹽の濯ぎもの | 撫子や五湖それぞれの悲話を秘め |
| 右手左手長さが違ふ熱帯夜 | 梅雨の虹懸かり受診の順は次 | 撫子や容優しき能勢の山 | 虚子文学館菫のしだれの大きかり |
| 大津絵の鬼が鐘打つ西鶴忌 | 懐かしや朝顔日記書く子供 | 帰りには刈られてありし稲の秋 | |
| 山崎隆司 | 同 | 中川一成 | 田中豊夫 |
| 同 | 同 | 吉田孝江 | 飯塚久子 |
| 同 | 同 | 美濃 眞 | 同 |
| 同 | 同 | 宮脇芳美 | 同 |
| 同 | 同 | 寺田千代子 | 羽根美恵子 |
| 同 | 同 | 谷口文字 | |

● 平成23年度 医療事故防止標語の入賞作品決定 ●

医療の安全確保に対する意識向上のための「平成23年度医療事故防止の標語」を職員より募集し、応募総数210作品の中から、厳正かつ公平な検討の結果、以下のとおり各賞が決定いたしました。

※入賞作品については、シールにして外来・病棟・各部署へ貼付しています。

入賞作品

◎理事長賞（臨床工学室）



◎病院長賞（整形外科）



◎医療安全推進部長（55病棟）



◎佳作

- ・ O：思い込み M：みんなで確認 C：チェックしよう (34病棟)
- ・ 小さな気配り 大きな成果 みんなで摘み取るリスクの芽 (形成外科)
- ・ 病院中 いつも飛び交う「ありがとう」 (薬剤部)
- ・ 先を読む 柔軟思考が 事故防ぐ (看護専門学校)
- ・ 声かけて守ろう安全 防ごう間違い (血液浄化センター)

● 病院ボランティア活動のご紹介 ●

ふれあいメンバーの手により、折り紙や押し花、ちりめん人形など季節の飾りが作成されております。



現在、作品は病院7号館1階図書コーナー本棚の上と外来化学療法センターの待合室に展示しています。

患者さまから「心がなごみます」と声をかけていただくことがあり、担当ボランティアさんの励みになっています。



表紙絵：秋竜胆（リンドウ科）と孔雀草（キク科）

先の号に引き続き、秋の生け花を表紙絵に選んだ。秋リンドウと孔雀草である。

竜胆（リンドウ）には春咲と秋咲があるが、秋咲のリンドウは日本原産のエゾリンドウとその変種である。山野にあるものは青紫色であるが、観賞用に品種改良された白色やピンク色がある。根を乾燥したものを漢方で竜胆と言ひ、消化不良の薬に用いられる。これが訛ったものである。孔雀草の開花期は8月～11月、北アメリカ産で、観賞用として昭和30年ごろ日本に入ってきた。長い茎がたくさん枝分かれして2cmくらいの多数の花を咲かせる。孔雀の尾羽にみたとて、この名称となった。学名は孔雀アスター、アスターとは星のことである。

名誉教授 富士原 彰

個人情報の取扱いについて：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い本学では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第90号
発行年月 平成23年11月
発行 学校法人 大阪医科大学
編集・発行 総合企画部
印刷 大日本印刷株式会社
大阪医科大学ホームページ
<http://www.osaka-med.ac.jp/>